



茨城県

# 茨城県景気ウォッチャー調査

(令和5年9月調査分)

## 《景気の現状判断DI》

	令和5年6月	令和5年9月	前回調査との差
茨城県	57.5	<b>49.4</b>	△8.1
県北地域	58.2	<b>48.9</b>	△9.3
県央地域	61.2	<b>54.2</b>	△7.0
鹿行地域	55.6	<b>43.6</b>	△12.0
県南地域	55.1	<b>51.1</b>	△4.0
県西地域	57.1	<b>49.0</b>	△8.1

## 《景気の先行き判断DI》

	令和5年6月	令和5年9月	前回調査との差
茨城県	53.5	<b>51.6</b>	△1.9
県北地域	56.1	<b>50.5</b>	△5.6
県央地域	56.1	<b>51.6</b>	△4.5
鹿行地域	51.7	<b>50.0</b>	△1.7
県南地域	51.0	<b>54.3</b>	+3.3
県西地域	52.6	<b>51.5</b>	△1.1

令和5年(2023年)10月26日公表

茨城県政策企画部統計課

## 目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
	(1) 景気の現状判断DI	3
	(2) 景気の先行き判断DI	4
2	地域別の動向	5
	(1) 景気の現状判断DI	5
	(2) 景気の先行き判断DI	8
III	景気の判断コメント	11
1	景気の現状判断コメント	11
2	景気の先行き判断コメント	21
3	その他の意見	31

問合せ先  
茨城県統計課商工農林グループ TEL:029-301-2656  
公式サイトのURL  
<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

県内の事業所等において経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気動向判断等の基礎資料とする。

## 2 調査の範囲

### (1) 対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市町村は以下のとおりである。

地域	市 町 村
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町
県央地域	水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ケ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

### (2) 調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに50名、計250名を調査客体とする。

業 種 名	具 体 例	県北 地域	県央 地域	鹿行 地域	県南 地域	県西 地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等	30	30	30	30	30	150
企業関連	農林水産業、製造業、建設業、金融業等	16	16	16	16	16	80
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等	4	4	4	4	4	20
	計	50	50	50	50	50	250

## 3 有効回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	250 人	238 人	95.2%
県北地域	50 人	47 人	94.0%
県央地域	50 人	48 人	96.0%
鹿行地域	50 人	47 人	94.0%
県南地域	50 人	47 人	94.0%
県西地域	50 人	49 人	98.0%

## 4 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断 (方向性)
- (2) (1) のコメント (理由)
- (3) 景気の先行きに対する判断 (方向性)
- (4) (3) のコメント (理由)
- (5) その他景気に関する意見 (自由回答)

## 5 調査月及び調査期間

調査月は6月、9月、12月及び3月の年4回である。令和5年9月調査の調査期間は、令和5年9月5日から20日までである。

## 6 利用上の注意

- (1) DI (Diffusion Index) は景気の方性 (景気が上向きか下向きか) をみるものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

### ※DI(Diffusion Index)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気の方性をみるための指標 (DI) を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなっ ている
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

- 2 具体例  
回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなっ ている
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は、

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなっ ている
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1 \text{ 点} \times 15.0\%) + (0.75 \text{ 点} \times 27.0\%) + (0.5 \text{ 点} \times 25.0\%) + (0.25 \text{ 点} \times 11.0\%) + (0 \text{ 点} \times 22.0\%) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は50 (=0.5点×100%) となることから、50を上回っているときは、景気は上昇局面にあり、50を下回っているときは、景気は下降局面にあるといえる。

## Ⅱ 調査結果の概要

### 1 全県の動向

#### (1) 景気の現状判断DI

景気の現状判断DIは49.4となった。令和5年6月調査（以下「前回調査」という。）より8.1ポイント低下し、横ばいを表す50を3期ぶりに下回った。

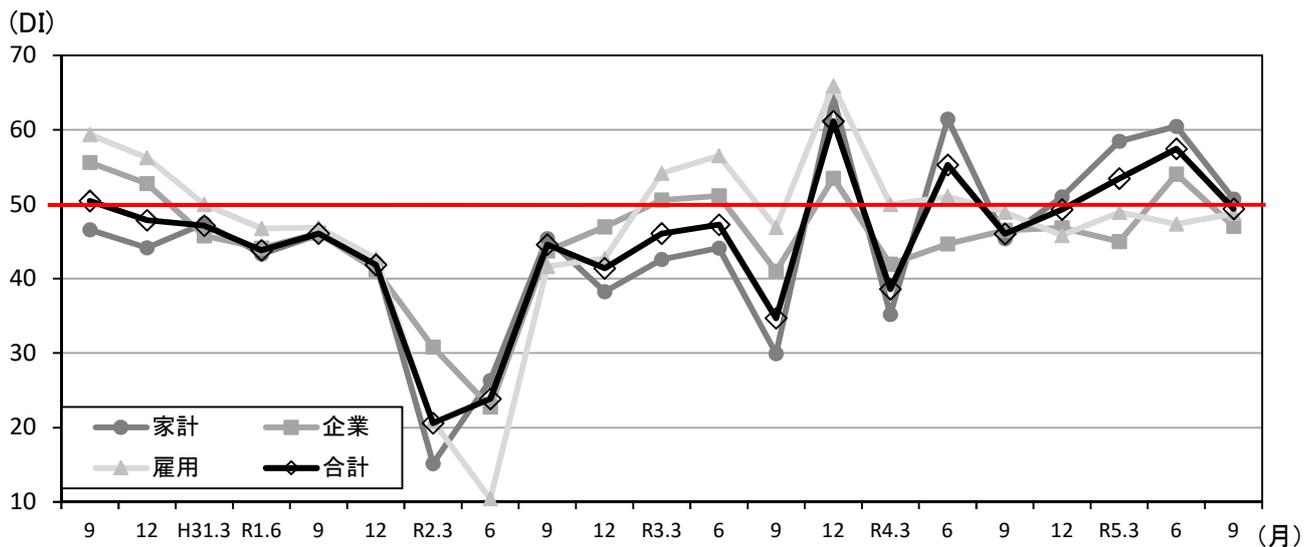
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
合計		46.0	49.3	53.5	57.5	49.4
家計動向関連		45.4	51.0	58.5	60.5	50.7
小売関連		40.8	44.6	49.6	58.6	47.4
飲食関連		41.3	65.5	68.1	69.4	56.9
サービス関連		51.6	53.0	65.1	59.1	50.8
住宅関連		36.1	50.0	52.8	63.9	59.4
企業動向関連		46.5	46.8	45.0	54.1	47.0
農林水産業		37.5	40.6	28.1	46.9	40.6
製造業		46.3	48.4	46.0	55.9	45.5
非製造業		49.2	46.1	47.7	53.6	50.9
雇用関連		48.9	45.8	48.9	47.4	48.8

表1-2 回答構成比

	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
良くなっている	3.2%	4.9%	8.1%	8.7%	2.5%
やや良くなっている	20.9%	24.9%	29.7%	37.8%	25.2%
変わらない	40.8%	39.3%	36.6%	32.0%	44.5%
やや悪くなっている	27.0%	24.2%	19.4%	17.8%	22.7%
悪くなっている	8.2%	6.7%	6.2%	3.7%	5.0%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



## (2)景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは51.6となった。前回調査より1.9ポイント低下したものの横ばいを表す50を3期連続で上回った。

表1-3 景気の先行き判断DI

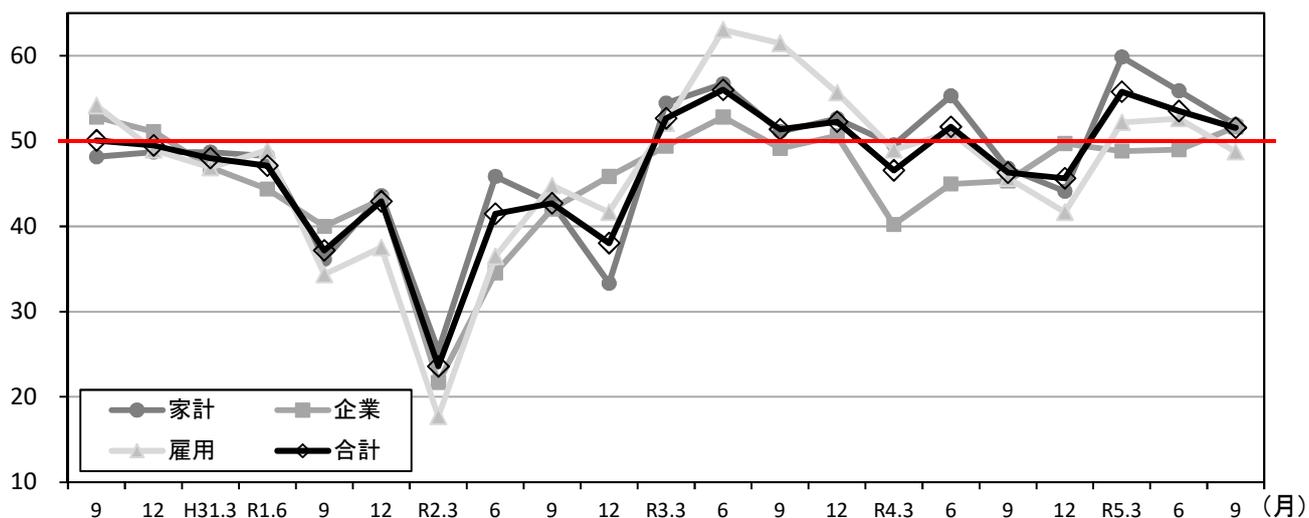
分野	調査年月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
合計		46.3	45.6	55.8	53.5	51.6
家計動向関連		46.8	44.1	59.8	55.9	51.9
小売関連		40.4	41.4	54.9	53.0	45.6
飲食関連		52.5	47.6	66.7	65.3	61.1
サービス関連		51.3	45.9	63.7	56.3	54.2
住宅関連		44.4	41.7	52.8	52.8	59.4
企業動向関連		45.3	49.7	48.8	49.0	51.6
農林水産業		34.4	46.9	37.5	43.8	53.1
製造業		48.4	48.4	49.4	50.0	53.2
非製造業		43.5	52.3	50.8	49.1	49.1
雇用関連		45.7	41.7	52.2	52.6	48.8

表1-4 回答構成比

	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
良くなっている	1.1%	1.8%	8.4%	5.0%	2.9%
やや良くなっている	23.0%	18.2%	32.6%	27.4%	24.8%
変わらない	43.6%	47.0%	38.1%	46.5%	51.3%
やや悪くなっている	24.5%	26.7%	15.4%	19.1%	17.6%
悪くなっている	7.8%	6.3%	5.5%	2.1%	3.4%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移

(DI)



## 2 地域別の動向

### (1)景気の現状判断DI

#### ① 県北地域

景気の現状判断DIは48.9となった。前回調査より9.3ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

調査年月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
分野					
合計	<b>47.7</b>	<b>48.2</b>	<b>44.6</b>	<b>58.2</b>	<b>48.9</b>
家計動向関連	49.2	52.9	47.6	60.8	54.5
企業動向関連	47.1	44.4	37.5	55.0	38.3
雇用関連	37.5	25.0	50.0	50.0	50.0

表2-2 回答構成比

	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
良くなっている	3.7%	1.8%	0.0%	8.2%	0.0%
やや良くなっている	20.4%	30.4%	21.6%	40.8%	34.0%
変わらない	44.4%	33.9%	45.1%	30.6%	31.9%
やや悪くなっている	25.9%	26.8%	23.5%	16.3%	29.8%
悪くなっている	5.6%	7.1%	9.8%	4.1%	4.3%

#### ② 県央地域

景気の現状判断DIは54.2となった。前回調査より7.0ポイント低下したものの、横ばいを表す50を4期連続で上回った。

表2-3 景気の現状判断DI

調査年月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
分野					
合計	<b>44.6</b>	<b>55.2</b>	<b>59.4</b>	<b>61.2</b>	<b>54.2</b>
家計動向関連	44.6	55.3	64.6	66.7	56.0
企業動向関連	42.9	55.0	50.0	53.3	51.7
雇用関連	50.0	55.0	50.0	50.0	50.0

表2-4 回答構成比

	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
良くなっている	3.6%	12.1%	5.4%	6.1%	4.2%
やや良くなっている	17.9%	25.9%	46.4%	46.9%	27.1%
変わらない	41.1%	36.2%	30.4%	32.7%	52.1%
やや悪くなっている	28.6%	22.4%	16.1%	14.3%	14.6%
悪くなっている	8.9%	3.4%	1.8%	0.0%	2.1%

### ③ 鹿行地域

景気の現状判断DIは43.6となった。前回調査より12.0ポイント低下して、横ばいを表す50を3期ぶりに下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
合計		<b>45.3</b>	<b>49.6</b>	<b>51.4</b>	<b>55.6</b>	<b>43.6</b>
	家計動向関連	41.7	50.7	50.8	54.3	39.7
	企業動向関連	50.0	48.6	51.5	57.7	50.0
	雇用関連	56.3	45.0	56.3	58.3	50.0

表2-6 回答構成比

	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
良くなっている	1.7%	3.5%	7.4%	13.3%	2.1%
やや良くなっている	22.4%	21.1%	27.8%	24.4%	21.3%
変わらない	36.2%	49.1%	35.2%	37.8%	38.3%
やや悪くなっている	34.5%	22.8%	22.2%	20.0%	25.5%
悪くなっている	5.2%	3.5%	7.4%	4.4%	12.8%

### ④ 県南地域

景気の現状判断DIは51.1となった。前回調査より4ポイント低下したものの、横ばいを表す50を3期連続で上回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
合計		<b>46.9</b>	<b>47.3</b>	<b>51.4</b>	<b>55.1</b>	<b>51.1</b>
	家計動向関連	47.0	49.3	62.5	62.1	52.8
	企業動向関連	46.1	45.6	38.9	50.0	51.6
	雇用関連	50.0	40.0	30.0	25.0	37.5

表2-8 回答構成比

	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
良くなっている	5.3%	7.1%	17.0%	10.2%	4.3%
やや良くなっている	19.3%	19.6%	13.2%	32.7%	23.4%
変わらない	40.4%	35.7%	37.7%	30.6%	48.9%
やや悪くなっている	28.1%	30.4%	22.6%	20.4%	19.1%
悪くなっている	7.0%	7.1%	9.4%	6.1%	4.3%

⑤ 県西地域

景気の現状判断DIは49.0となった。前回調査より8.1ポイント低下して、横ばいを表す50を3期ぶりに下回った。

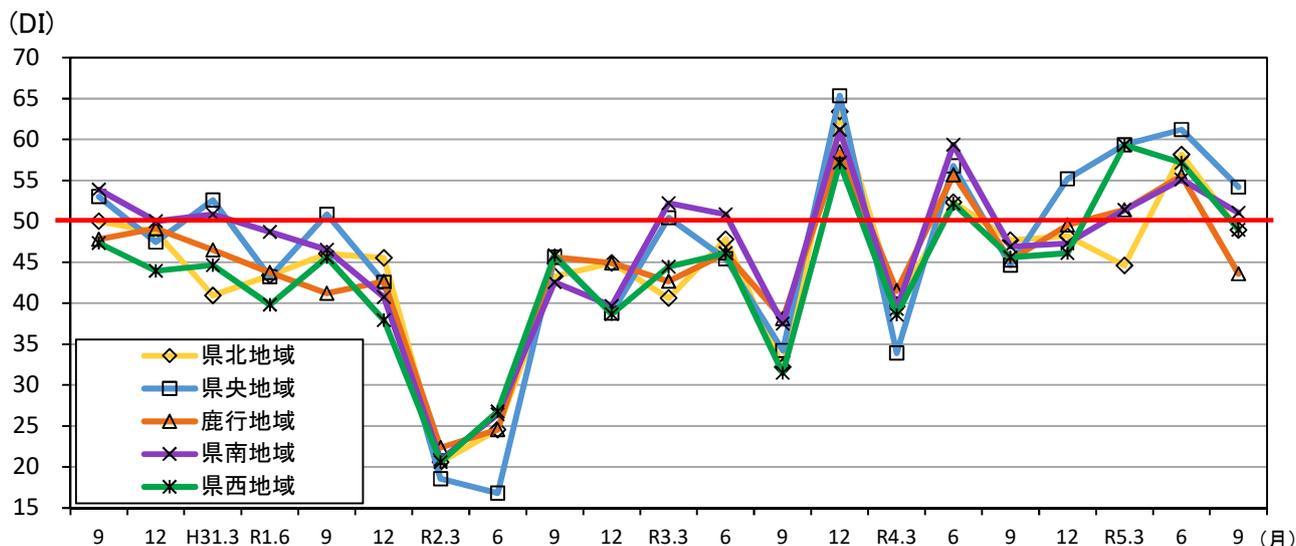
表2-9 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
合計		45.6	46.1	59.3	57.1	49.0
家計動向関連		44.9	46.3	65.7	58.3	50.9
企業動向関連		45.8	42.1	47.4	55.0	43.8
雇用関連		50.0	60.0	60.0	56.3	56.3

表2-10 回答構成比

	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
良くなっている	1.8%	0.0%	10.2%	6.1%	2.0%
やや良くなっている	24.6%	27.6%	37.3%	42.9%	20.4%
変わらない	42.1%	41.4%	35.6%	28.6%	51.0%
やや悪くなっている	17.5%	19.0%	13.6%	18.4%	24.5%
悪くなっている	14.0%	12.1%	3.4%	4.1%	2.0%

図2-1 地域別現状判断DIの推移



	H30.9	H30.12	H31.3	R1.6	R1.9	R1.12	R2.3	R2.6	R2.9	R2.12	R3.3	R3.6	R3.9	R3.12	R4.3	R4.6	R4.9月	R4.12月	R5.3月	R5.6月	R5.9月
県全体	50.4	47.8	47.1	43.8	46.1	41.9	20.6	23.8	44.6	41.4	46.1	47.3	34.7	61.2	38.6	55.3	46.0	49.3	53.5	57.5	49.4
県北	50.0	48.7	40.9	43.4	46.1	45.5	20.6	24.6	43.3	44.9	40.8	47.8	32.2	63.4	39.6	52.3	47.7	48.2	44.6	58.2	48.9
県央	53.0	47.5	52.6	43.2	50.9	42.5	18.5	16.8	45.6	38.8	50.5	45.4	34.2	65.4	33.9	56.8	44.6	55.2	59.4	61.2	54.2
鹿行	47.8	49.1	46.5	43.8	41.2	42.7	22.4	24.6	45.6	44.9	42.7	46.1	38.1	58.5	41.5	55.7	45.3	49.6	51.4	55.6	43.6
県南	53.9	50.0	50.9	48.7	46.6	40.7	20.9	26.4	42.5	39.7	52.2	50.9	37.5	61.2	39.3	59.4	46.9	47.3	51.4	55.1	51.1
県西	47.4	44.0	44.6	39.8	45.6	37.9	20.6	26.8	45.8	38.7	44.4	46.1	31.5	57.1	38.6	52.2	45.6	46.1	59.3	57.1	49.0
全国	47.7	46.9	45.1	44.3	45.4	39.7	14.1	38.6	48.2	36.0	47.8	45.8	42.7	58.3	47.1	52.1	48.9	48.7	53.3	53.6	49.9(季節調整値)
	47.3	48.2	46.7	43.3	45.7	40.7	15.9	38.0	48.7	36.5	49.5	45.4	43.3	58.6	48.9	51.8	49.6	49.0	55.2	53.6	50.4(原数値)

## (2)景気の先行き判断DI

### ① 県北地域

景気の先行き判断DIは50.5となった。前回調査より5.6ポイント低下したものの、横ばいを表す50を3期連続で上回った。

表2-11 景気の先行き判断DI

調査年月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
分野					
合計	<b>38.9</b>	<b>40.2</b>	<b>53.9</b>	<b>56.1</b>	<b>50.5</b>
家計動向関連	38.6	42.6	56.5	60.0	54.5
企業動向関連	39.7	37.5	50.0	51.7	46.7
雇用関連	37.5	31.3	50.0	43.8	37.5

表2-12 回答構成比

	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
良くなっている	0.0%	0.0%	3.9%	6.1%	2.1%
やや良くなっている	16.7%	19.6%	39.2%	32.7%	31.9%
変わらない	35.2%	37.5%	37.3%	40.8%	36.2%
やや悪くなっている	35.2%	26.8%	7.8%	20.4%	25.5%
悪くなっている	13.0%	16.1%	11.8%	0.0%	4.3%

### ② 県央地域

景気の先行き判断DIは51.6となった。前回調査より4.5ポイント低下したものの、横ばいを表す50を3期連続で上回った。

表2-13 景気の先行き判断DI

調査年月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
分野					
合計	<b>51.8</b>	<b>43.5</b>	<b>60.7</b>	<b>56.1</b>	<b>51.6</b>
家計動向関連	52.7	42.1	63.2	61.7	49.1
企業動向関連	50.0	55.4	53.3	48.3	56.7
雇用関連	50.0	30.0	65.0	43.8	50.0

表2-14 回答構成比

	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
良くなっている	0.0%	0.0%	7.1%	6.1%	2.1%
やや良くなっている	33.9%	13.8%	42.9%	28.6%	20.8%
変わらない	41.1%	50.0%	37.5%	49.0%	62.5%
やや悪くなっている	23.2%	32.8%	10.7%	16.3%	10.4%
悪くなっている	1.8%	3.4%	1.8%	0.0%	4.2%

### ③ 鹿行地域

景気の先行き判断DIは50.0となった。前回調査より1.7ポイント低下して、横ばいを表す50となった。

表2-15 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
合計		45.3	48.2	53.7	51.7	50.0
	家計動向関連	45.1	43.4	58.3	51.7	50.0
	企業動向関連	45.8	59.7	45.6	48.1	50.0
	雇用関連	43.8	40.0	50.0	66.7	50.0

表2-16 回答構成比

	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
良くなっている	0.0%	1.8%	13.0%	0.0%	2.1%
やや良くなっている	19.0%	21.1%	16.7%	33.3%	23.4%
変わらない	51.7%	49.1%	46.3%	42.2%	51.1%
やや悪くなっている	20.7%	24.6%	20.4%	22.2%	19.1%
悪くなっている	8.6%	3.5%	3.7%	2.2%	4.3%

### ④ 県南地域

景気の先行き判断DIは54.3となった。前回調査より3.3ポイント上昇して、横ばいを表す50を3期連続で上回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
合計		47.8	47.3	56.6	51.0	54.3
	家計動向関連	49.2	44.9	63.3	55.2	57.4
	企業動向関連	46.1	52.9	50.0	43.8	50.0
	雇用関連	45.0	45.0	40.0	50.0	50.0

表2-18 回答構成比

	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
良くなっている	1.8%	5.4%	13.2%	6.1%	6.4%
やや良くなっている	21.1%	10.7%	32.1%	22.4%	21.3%
変わらない	50.9%	55.4%	30.2%	44.9%	55.3%
やや悪くなっている	19.3%	25.0%	17.0%	22.4%	17.0%
悪くなっている	7.0%	3.6%	7.5%	4.1%	0.0%

⑤ 県西地域

景気の先行き判断DIは51.5となった。前回調査より1.1ポイント低下したものの、横ばいを表す50を3期連続で上回った。

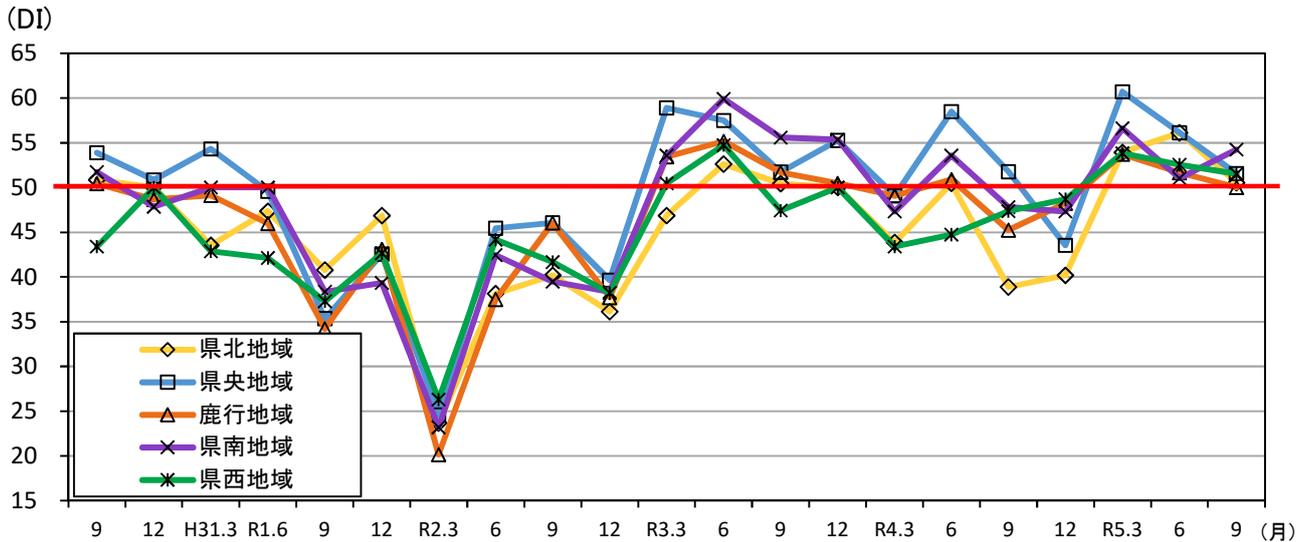
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
合計		47.4	48.7	53.8	52.6	51.5
家計動向関連		47.8	47.8	57.9	50.8	49.1
企業動向関連		45.8	47.4	46.1	53.3	54.7
雇用関連		50.0	60.0	55.0	62.5	56.3

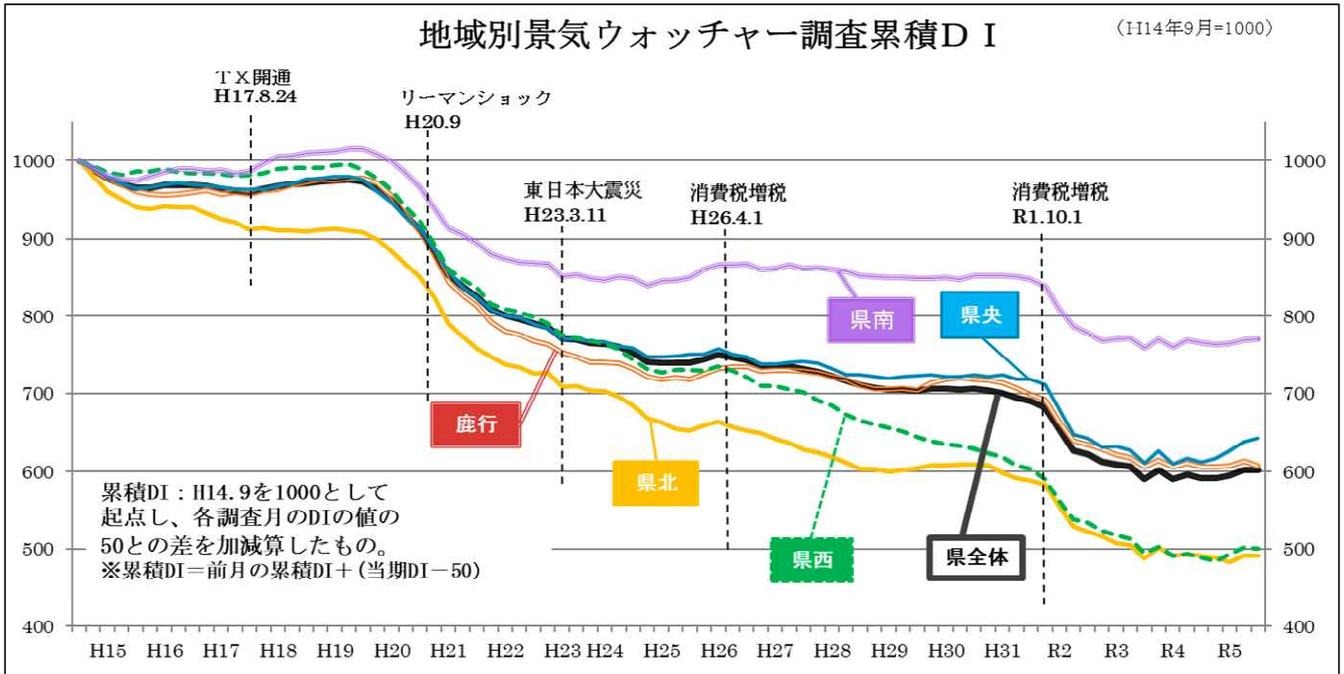
表2-20 回答構成比

	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
良くなっている	3.5%	1.7%	5.1%	6.1%	2.0%
やや良くなっている	24.6%	25.9%	32.2%	20.4%	26.5%
変わらない	38.6%	43.1%	39.0%	55.1%	51.0%
やや悪くなっている	24.6%	24.1%	20.3%	14.3%	16.3%
悪くなっている	8.8%	5.2%	3.4%	4.1%	4.1%

図2-2 地域別先行き判断DIの推移



	H30.9	H30.12	H31.3	R1.6	R1.9	R1.12	R2.3	R2.6	R2.9	R2.12	R3.3	R3.6	R3.9	R3.12	R4.3	R4.6	R4.9月	R4.12月	R5.3月	R5.6月	R5.9月
県全体	50.1	49.5	48.0	47.1	37.2	42.9	23.6	41.5	42.7	38.0	52.7	56.0	51.4	52.2	46.6	51.7	46.3	45.6	55.8	53.5	51.6
県北	50.9	50.0	43.5	47.4	40.8	46.9	23.7	38.1	40.2	36.1	47.4	52.6	50.4	50.0	43.9	50.5	38.9	40.2	53.9	56.1	50.5
県央	53.9	50.8	54.3	49.6	35.3	42.5	24.6	45.5	46.1	39.7	58.6	57.5	51.8	55.3	49.1	58.5	51.8	43.5	60.7	56.1	51.6
鹿行	50.4	48.7	49.1	46.0	34.2	43.1	20.2	37.5	46.1	37.7	53.4	55.2	51.7	50.5	49.1	50.9	45.3	48.2	53.7	51.7	50.0
県南	51.7	47.8	50.0	50.0	38.4	39.4	23.2	42.5	39.5	38.4	53.6	59.9	55.6	55.4	47.3	53.6	47.8	47.3	56.6	51.0	54.3
県西	43.4	50.0	42.9	42.1	37.3	42.7	26.3	44.2	41.7	38.2	50.5	54.7	47.4	50.0	43.4	44.7	47.4	48.7	53.8	52.6	51.5
全国	51.2	47.6	48.1	45.7	36.9	45.1	18.8	44.2	47.2	36.7	48.7	51.9	56.6	50.1	48.4	48.4	49.2	46.8	54.1	52.8	49.5(季節調整値)
	50.7	47.0	47.9	46.3	36.7	44.5	18.7	44.8	47.1	36.1	48.6	52.6	56.7	49.5	48.4	49.2	49.3	46.3	54.1	53.6	49.7(原数値)



### III 景気の判断コメント — 1 景気の状態判断コメント

#### (1) 県北地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良くなっている	家計	商店街代表者	物価の高騰にも客が少しずつ慣れてきたような気がするため、やや良くなっていると判断した。
		スーパー	売上げについて、6月の売上げと比べると伸び率が良いため、やや良くなっていると判断した。
		スーパー	前年比物価上昇による買控えを懸念していたが、客数、客単価ともに前年比101%を超えており順調に数字を伸ばしており、ALPS処理水の海洋放出も懸念要因だったが、好調に推移しているため、やや良くなっていると判断した。
		コンビニエンスストア	季節的に夏場は売上げが良い。今年は新型コロナウイルスに対する規制緩和により、県外の人の移動が見られたため、やや良くなっていると判断した。特に学生の団体客やゴルフ場のイベント等。
		小売業 (弁当・惣菜店)	各種のイベントも開催されるようになり徐々にではあるが人の流れも出てきたため、やや良くなっていると判断した。
		自動車販売店	新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、人の動きが活発になり購買意欲、消費意欲が上がってきているため、やや良くなっていると判断した。
		小売業 (酒類)	こだわりの商品を品揃えした結果、客が増えたため、やや良くなっていると判断した。
		スナック	土日の道路の混雑やショッピングモールや観光地の人出が多いため、やや良くなっていると判断した。
		日本料理店	コロナ禍も落ち着いて市民の生活、日常活動も元に戻りつつあるようだ。予約が増えてきて、メインの食事以外のお酒、おつまみ、デザート注文が増えてきたため、やや良くなっていると判断した。
		観光型ホテル	先月は、夏休みの影響で多くの客が来て、さらに、新型コロナウイルスが終息し、法事等の宴会も多く賑わいを見せたため、やや良くなっていると判断した。
		観光型ホテル	宿泊や宴会についての問合せが増えており、以前よりも僅かながら団体客からの予約や問合せも増えていると感じるため、やや良くなっていると判断した。
		旅行会社	人の動きが活発になってきているため、やや良くなっていると判断した。
		タクシー会社	売上げが前月より伸びているため、やや良くなっていると判断した。
	設計事務所	周辺の動きが以前より活発になってきたため、やや良くなっていると判断した。	
	企業	製造業 (化学工業)	個人消費やインバウンドの回復による需要増が認められるため、やや良くなっていると判断した。
	雇用	求人開拓員	求職者があきらかに増えてきているため、やや良くなっていると判断した。
変わらない	家計	小売業 (食料品)	客足が戻ってこないため、変わらないと判断した。
		小売業 (水産物)	売上げが伸びないため、変わらないと判断した。
		レストラン	客数・客単価とも大きく変わらず、売上げも前期に比べては伸びているが、3か月前と比べると伸び率は横ばいであるため、変わらないと判断した。
		タクシー運転手	客の様子から、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行して以降、若干動き出したかと思ったら、ガソリンの値上げ、物価高に押され伸び悩みの状態だと思われるため、変わらないと判断した。
		レジャー施設	販売価格の変更をしていないが、客単価の上昇が見受けられる。一方で入園者の減少が見受けられるため、外出は控える傾向にあるので支出機会は減少しているが、支出額は増加する傾向にある。また、関連企業間においても支出額は増加傾向にあり、経済循環がより加速しているが人件費や燃料費及び売上げ原価の上昇に伴い、全体としては、横ばいで推移しているため、変わらないと判断した。

変わらない	家計	ゴルフ場	物価高騰のため、変わらないと判断した。
	企業	水産業関係者	変化を感じることができなかつたため、変わらないと判断した。
		製造業（電気機械器具）	弊社の6～8月の全体の生産高は変動は大きくなく、9月も他の同業社とほぼ横ばいのため、変わらないと判断した。
		製造業（電気機械器具）	液晶・半導体製造装置関係、建設機械関連において注残が多い状況が継続しているため、変わらないと判断した。
		製造業（精密機械器具）	良くなっている業界とそうでない業界が半々と思うため、変わらないと判断した。
		建設業	見積状況や受注量、また、普段接する取引先の話等からあまり変わらないと判断した。
		金融業	新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴って経済活発化への期待感が高まっていたものの、再拡大の兆候や物価高騰等が阻害要因となり、改善している感覚は薄いため、変わらないと判断した。
		非製造業（その他）	受注量が例年並みのため、変わらないと判断した。
雇用	公共職業安定所	製造業においては、円安や原材料の高騰、需要の低下などで思うような生産体制が取れないようだ。とはいえ、非鉄金属関係の事業所等は逆に国内生産の回帰を図り、業績を伸ばしている。中には海外からの加工関係の国内回帰に乗り規模の拡大を図る企業も出てきているが、これについてはまだごく一部であり、全体的には低迷しているため、変わらないと判断した。	
	学校就業関係者	取引先などからの会話から、変わらないと判断した。	
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	ガソリン高騰などの物価上昇により、購買意欲が減退しているため、やや悪くなっていると判断した。
		衣料品販売店	物価上昇で買控えており洋服まではいかないため、やや悪くなっていると判断した。
		小売業（時計）	とにかく客数の減少が続いているため、やや悪くなっていると判断した。ネットでの購入（特に腕時計）が多く、じりじりと首を絞めてきている。
		ドライブイン	対比売上げ、客数が80%。ガソリンの高騰の影響が大きく猛暑及び雨の影響も大きいいため、やや悪くなっていると判断した。
		ゴルフ場	利用者の減少があるため、やや悪くなっていると判断した。
		ゴルフ場	台風13号による甚大な被害により、レジャーどころではない状況のため、やや悪くなっていると判断した。
		写真店	予約件数の昨年、一昨年との同月比の比較や問合せ件数の状況、最近の客単価等を踏まえて、やや悪くなっていると判断した。
企業	製造業（食料品）	異常な暑さの影響によるものと思われるが、物価高の影響も加味しているため、やや悪くなっていると判断した。	
	製造業（電気機械器具）	第1クォーターに比べ、盆の長期休暇もあったが生産数また計画が落ちたため、悪くなっていると判断した。	
	製造業（精密機械器具）	仕事の受注が減少しているため、やや悪くなっていると判断した。	
	製造業（その他）	新型コロナウイルスが収束に向かい企業も個人も活動が活発化している一方、企業ではあらゆる資材、個人ではあらゆる物価の値上げ、さらには燃料油の急上昇により行動や購買意欲が大幅に制限されているため、やや悪くなっていると判断した。	
	建設業	新築住宅に関する受注に繋がる相談や打合せが少なくなってきたため、やや悪くなっていると判断した。	
	不動産業	物価の高騰の影響（特にガソリン価格）が引越等動きや売買物件の動きは少なくなっているため、やや悪くなっていると判断した。	
	雇用	求人広告	募集広告の総数は減少している傾向だが求職者の応募数は増加傾向にある。これは不景気時に見られる特徴的な現象であるため、やや悪くなっていると判断した。
悪	家計	美容室	インフレによる消費の低下のため、悪くなっていると判断した。
	企業	林業関係者	時期的要因も多いが、製品の流れが悪く、それに伴い丸太価格にも影響し、さらに燃料費高騰のため、悪くなっていると判断した。

## (2) 県央地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	酒・各種商品小売業	コロナ禍も落ち着きイベント等もコロナ禍前に戻りつつあり、家族旅行が多いと感じる。私の街でも祭りがあり、コロナ禍後初の祭りで大変賑わったと思うため、良くなっていると判断した。
		住宅販売会社	建築関係で資材の高騰による金額の転換により見積り金額が上がったが、客に納得してもらえるようになったため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	新型コロナウイルス感染症の第5類感染症移行に伴い、中止や縮小されていたイベント等が復活してきて、それに伴い購買意欲も平常に戻ってきたと感じられるため、やや良くなっていると判断した。
		小売業	客数が増え、消費行動の活発化が見られるため、やや良くなっていると判断した。
		コンビニエンスストア	今年の夏に関しては、店の売上げや、催事の際に人の動きを感じたため、やや良くなっていると判断した。
		楽器販売	夏の時期、盆近辺のレッスンを休みにする人が例年に比べ増えた。これまで行けなかった旅行等に行く人が増えたことから、やや良くなっていると判断した。
		日本料理店	移動制限が無くなってきているので、来客者は増えている。インバウンドも戻ってきているため、やや良くなっていると判断した。
		都市型ホテル	現在の予約状況は夏頃から伸びている。客の声は、久々に宴会をしたいからの声が多く予約受注に繋がっているため、やや良くなっていると判断した。
		観光型ホテル	3か月前の予約状況はコロナ禍前に比べ弱かったが、現在は例年並みに推移しているため、やや良くなっていると判断した。
		バス運転手	新施設の開館により、大人数を擁する会議やイベントが開催される時には、市内中心街の人や車の数が多くなったため、やや良くなっていると判断した。特に、著名なアーティストの公演の際には、県外からも来ているようである。
		観光名所	3か月前と比較すると客単価が増加しているため、景気はやや良くなっていると判断した。
		レジャー施設	前年同月比と比較しても、来館者や収入も増加に転じているため、景気はやや良くなっていると判断する。
		企業	製造業（輸送用機械器具）
情報通信業（情報サービス業）	新型コロナウイルスが5類感染症に移行してから出張者や会食等も増え人流が多くなっているため、やや良くなっていると判断した。		
雇用	求人開拓員	当所利用者（求職者）の人数がやや減少傾向にあるため、やや良くなっていると判断した。	
変わらない	家計	スーパー	店舗の状況として客数はほぼ前年並みの推移。値上げ情勢のため、1人あたりの買上点数が減少しており1点あたりの単価は上昇しているため、供給高は前年より微増という構造は変わらない。上記の様な傾向は継続しており、特に3か月前とは状況は変化がないため、変わらないと判断した。
		スーパー	物価の高騰により商品単価が上がっており、消費者の買控えが発生している。9月に入っても暑さが続いており、秋物衣料をはじめ季節商品の動きが鈍いため、変わらないと判断した。
		コンビニエンスストア	5月、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後、外出する人出の増加、それに伴う客数増加が3か月前と変わらず継続しているため、変わらないと判断した。
		小売業	3か月前も今も客足が鈍くあまり変わらないため、変わらないと判断した。
		農産物直売所	売れ筋の価格帯が変わらない。仕入れに来る飲食店の買上げに変化がないため、変わらないと判断した。
		割烹料理店	物価高騰の影響があると思ったが純利益は変わらないため、変わらないと判断した。
		旅行代理店	個人・企業・教育分野においてさほど動きが変わらないため、変わらないと判断した。円安の影響もある。
		タクシー運転手	売上げについて今月の前年比と3か月前の前年比を比べると今月の伸び率が変わらないので、景気は変わらないと判断した。
		スーパー銭湯	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されてからは、来店者数と客単価ともに昨年と比べ高水準を維持している状況が現在も引き続いているため、変わらないと判断した。
		理・美容店	夏に向けて髪を切る方が多少増えたが、9月はまだ暑さが落ち着かないためかカットせず結びたいと言う客の声が多いため、変わらないと判断した。
設計事務所	人件費を始めあらゆるものの価格が高騰しているが、人手不足は慢性的で、求人しても人がいない状況は変わらないため、変わらないと判断した。		

変わらない	企業	農業関係者	3か月前に引き続き、商品価格が上昇して購入者が少ない状況のため、変わらないと判断した。
		製造業（窯業・土石製品）	安定して仕事が受注できているため、変わらないと判断した。
		製造業（金属製品）	生産数量について、顧客各社からの情報で今夏から増加と予測していたが、現状は計画数通りとなっているため、変わらないと判断した。ただし、内訳では顧客によっては要求数が大幅に増加しているところがある。増加分野としては、自動車の電装品（インバーター、モーター、電池関連）、特に海外（欧州）のEV需要増により上振れしている模様。
		製造業（精密機械器具）	売上げが変わっていないため、変わらないと判断した。
		運輸業	顧客製品の出荷台数も変わらない状況である（現時点）ため、変わらないと判断した。
		運輸業（道路貨物運送業）	貨物の動きの鈍さは相変わらずで、ほとんどの輸送が片道の積載となっており、実車率が上がらないため、変わらないと判断した。
		金融業	物価上昇分の価格転嫁により売上高は微増しているものの、物価上昇幅を十分に補填出来ていない事から、利益は減少している事業者が多いものと思慮される。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、消費者行動も活発になっているが、週末繁忙期に限られており、景気が回復しているとは感じられないため、変わらないと判断した。
		不動産業	法人個人ともに、受注状況はあまり変わらない。
雇用	公共職業安定所	この3か月における管内の有効求人倍率を前年同月比で見た場合、ほぼ横ばいであるため、変わらないと判断した。また、新規求人数もこれまでのプラス基調に陰りが見え、前年同月比でマイナスとなる月が発生するようになった。	
	学校就業関係者	コロナ禍以降、採用人事を抑制していた企業も採用活動の再開するなど、企業側の採用意欲は高い傾向にあり、求人情報の提供も同様に多い状況が継続している。次年度のインターンシップや求人についての情報提供も寄せられている事から安定した状態にあると考えるため、変わらないと判断した。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	資材高騰、人手不足、高齢化を感じるため、やや悪くなっていると判断した。
		自動車販売店	電気、ガソリン高騰などでやや悪化しているように感じられるため、やや悪くなっていると判断した。
		道の駅	買控えが発生しており必要なもの以外は買わないため、やや悪くなっていると判断した。客数、売上げ点数も95%になった。
		ゴルフ場	酷暑により屋外レジャーは敬遠された感があるため、やや悪くなっていると判断した。
		写真店	物価の高騰がまだまだあり、燃料費が非常に高いため厳しい状況が続いているため、やや悪くなっていると判断した。
企業	製造業（一般機械器具）	車関係では半導体不足の影響が続いており、二次下請け三次下請けまでの仕事量が無い状況のため、やや悪くなっていると判断した。	
雇用	求人広告	求人広告に対する応募者数が増えてきたため、やや悪くなっていると判断した。	
悪	家計	割烹料理店	3か月前は新型コロナウイルス感染者が下火になったので売上げの回復兆しがあったが、この頃の感染者の急増により客の来店数が極端に減っているため、悪くなっていると判断した。

## (3) 鹿行地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	クリーニング店	人が多く忙しかったため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	スーパー	昨年からの物価の上昇に伴い、売上げは103%を維持している。3か月前と比較しても現状を維持しているので、景気はやや良くなっていると判断する。
		スーパー	相次ぐ値上げによる節約志向の高まりで、家庭内食事需要が堅調に推移しているほか、気温が高い影響で涼味商材が好調だったため、やや良くなっていると判断した。人流の活発化もあり中食需要が伸長している。
		和食レストラン	エンドユーザーの集客が3か月前に比べ若干であるが回復傾向にあるため、やや良くなっていると判断した。しかしながら、依然として団体客の集客（宴会等）には時間を要する見込みである。
		洋食食堂	予約も入り、酒の消費も増えているため、やや良くなっていると判断した。
		運転代行	3か月前（6月）と比較して前年比を比べると、今月の前年比の伸び率がやや上がっているため景気はやや良くなっていると判断した。
	企業	建設業	世界的なインフレやロシアの軍事侵攻から、一層のリスクが高まっている。一方、国内景気は不透明感はあるが、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したりと景気の回復基調が見込まれているため、やや良くなっていると判断した。
		保険業	農家の収入が増えているため、やや良くなっていると判断した。特に畑でさつまいもを作っている農家。また、米作りの農家も2,000円高で販売されている。
		サービス業	新型コロナウイルスは完全に鎮静化はしていないが、顧客の来訪（打合せ、試験立会等）が急増。これは社会全体でも同様傾向と推定され、経済活動は徐々に活性化しているため、やや良くなっていると判断した。
	雇用	学校就業関係者	求人数も昨年より増えている。また、製造業の求人における待遇（特に賞与）が良くなっているため、やや良くなっていると判断した。さらに、円安を背景に輸出が好調の様子であり、製造業で輸出中心の企業は非常に忙しいとのことである。
	変わらない	家計	家電販売店
小売業（菓子類）			今月の売上げの対前年比と3か月前の対前年比がほぼ同じであるため、変わらないと判断した。
小売業（薬品店）			発熱外来で新型コロナウイルス陽性の患者が増えてきていると感じ、変わらないと判断した。
割烹料理店			多人数の予約は入るようになったが、それ以外の動きは相変わらず鈍いため、変わらないと判断した。
観光型ホテル			前年比と照らし合わせて大差ないため、変わらないと判断した。
住宅販売会社			悪くもなっていないし、良くもなっていないと思うので、変わらないと判断した。
企業		農業関係者	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行してから、感染状況は増えているようである。消費者のマスク等の予防対策も暑い時期も重なり、着用する割合も以前より少なくなったように思える。また、今年の暑さは尋常でなかったのか消費者も外出する機会が減っているようで、昨年より若干売上げが減少傾向である。また、生産資材の高騰は続いており、まだまだ生産コストの増加を農産物の販売で吸収しきれない状況のため、前回と景気はほとんど変わっていないと判断した。
		製造業（その他）	特に目新しい変化は見られないため、変わらないと判断した。
		製造業（精密機械器具）	3か月前に引き続き景気が良い状態を維持しているため、変わらないと判断した。
		製造業（ゴム製品）	客からのオーダーの状況を見ると変わらないと判断した。
		製造業（鉄鋼業）	特に目立った動きは感じられないため、変わらないと判断した。
		運輸業（道路貨物運送業）	物価高により良くはなっていないと思うため、変わらないと判断した。
		金融業	新型コロナウイルス収束もあり、飲食・小売業を中心に消費の需要回復が見られるも、多くの業種においては原油高騰や円安のほか、依然続くウクライナ情勢を受けた周辺材料高騰から各種コスト増を強いられており、利益確保の難航がみられるため、変わらないと判断した。
不動産業		来客数が少ない、悪いような気がする。売上げ自体は変わりがないため、変わらないと判断した。賃貸物件及びテナント物件のウエイトが高い。	
雇用		公共職業安定所	前年度と比較して新規求人数は減少しているが、今年度の傾向として、前年度より新規求人数は減少の傾向であり、減少幅も前月までと同様の状況であるため変わらないと判断した。
		求人開拓員	製造業・建設業・土木業の求人数に大きな変化はないが、ゴルフ場・ホテル業の求人数は相応数ある。しかし求職者が少なく人手不足が続いているため、変わらないと判断した。
やや悪		家計	商店街代表者
	コンビニエンスストア		客数、客単価の減少から、やや悪くなっていると判断した。
	小売業（食品）		7月は若さぎの解禁日だが若さぎが大不漁のため、やや悪くなっていると判断した。
	日本料理店		接待などが減ったため、やや悪くなっていると判断した。

やや悪くなっている	家計	旅行代理店	売上げについて今月と3か月前（6月）を比べると、今月の伸び率がやや悪くなっているため、やや悪くなっていると判断した。
		タクシー運転手	何もかも値上げが続いている現状では、景気は悪くなる一方だ。国民は非常に苦しい生活をしているため、やや悪くなっていると判断した。景気が回復しないのは、戦争かもしれない。ワンマン的な政治をすればこの様になる。頭が良い人がたくさんいるのに、やめさせる事が出来ないのだろうか。
		ゴルフ場	物価上昇の影響か、利用料金に対してシビアになり、客単価も下がる傾向がみられるため、やや悪くなっていると判断した。
		住宅販売会社	問合せだけ見ると新築はほぼなく、リフォームも国の施策等の枠が減ってきてる中で少ない状況になりつつあるため、やや悪くなっていると判断した。
	企業	製造業（食料品）	新型コロナウイルスが収束に向かったと思ったら、物価高 消費者は可処分所得が減り、財布の紐が固くなっているため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（金属製品）	原材料の高値が続き生産活動が活発でないため、やや悪くなっていると判断した。
		建設業	国や県発注の物件数や金額に大きな差異はないが、民間の設備投資が鈍い傾向にある。資材等の高騰が大きく影響していると思われるため、やや悪くなっていると判断した。
雇用	民間職業紹介業	依頼される受注数が減ってきているため、やや悪くなっていると判断した。	
悪くなっている	家計	衣料品販売店	実店舗、ネット販売ともに売上げが落ちているため、悪くなっていると判断した。
		農産物直売所	客数が減った。前面道路の通行数が明らかに減った。燃料の高騰が明らかに影響しているため、悪くなっていると判断した。
		農産物直売所	今年、猛暑の影響があり、来客数が減少してしまったため、悪くなっていると判断した。
		小売業	8月までは、来客数も客単価も順調だったが、9月に入ってから客数が減少しているため、悪くなっていると判断した。
		小売業（書店）	物価上昇により趣味関係の商品はカットされると思うため、悪くなっていると判断した。
		観光型ホテル	あらゆる物の物価上昇のため、悪くなっていると判断した。

(4) 県南地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	日本料理店	今月の売上げの前年比と3か月前（6月）の前年比を比べると、今月の売上げの前年比の伸び率が良いため、良くなっていると判断した。
		タクシー会社	売上げが伸びてきているため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	スーパー	やや良くなっていると判断した。値上げが続き、ディスカウント主体とする当店としては、客数、売上げともに伸びているのでそう感じるが、本当は経済的に苦しいのでディスカウントスーパーに集まっているのかもしれない。
		小売業（米穀）	インバウンド需要、富裕層の消費が増えているように思うため、やや良くなっていると判断した。
		洋食レストラン	もう少し良くなると思っていたが、いまいちだった。しかし、一度の来客数が1組に対して、2人ぐらいだったが、3～4人、もしくは6人と多くなってきているので、少し売上げにも関わってきているため、やや良くなっていると判断した。
		都市型ホテル	当ホテルでは飲食を伴う宴会・忘年会、及び宿泊の問合せが増えたため、やや良くなっていると判断した。
		都市型ホテル	大人数の宴会（周年行事）が9月は増え（3か月前と比較）、宴会1件の単価は上昇しているため、やや良くなっていると判断した。宿泊においては3ヶ月前と比較してもあまり変化はない。しかし先月（8月）は、学生団体が宿泊も多く、客室稼働率も高かった。
		サービスエリア	盆の帰省に来る家族連れ等の客の動きが活発化しており、売上げもコロナ禍以前の状況に戻りつつあるため、やや良くなっていると判断した。ただし、客数としてはそこまで戻っておらず、人数はマイナスとなっており、明らかな景気回復とまでは言えない。
		レジャー施設	当施設の業界全体の売上げがやや良くなっているため、やや良くなっていると判断した。
企業	企業	製造業（窯業・土石製品）	人手不足が続いており、給与が下がってしまったといった話は聞かないため、やや良くなっていると判断した。
		製造業（非鉄金属）	コロナ禍から脱却し、通常業務に戻りつつある。3か月前と比較し、半導体の流通が回復し自動車製造業においても高生産が維持されてきているため、やや良くなっていると判断した。
		製造業（その他）	量産の仕事が増えたため、やや良くなっていると判断した。
		運輸業（倉庫業）	6月は新年度のタイミングでの値上げがあり、買溜めによる在庫が減ってきていた時期であった。8月盆前までは同傾向であったが、盆過ぎからは10月からの商品値上げによる買溜めが始まっているのか貨物の入庫が増えつつあるため、やや良くなっていると判断した。
変わらない	家計	スーパー	3か月前と比較して、前年比売上げ、前年比客数が同等レベルで推移しているため、変わらないと判断した。
		家電販売店	相変わらず商品の物価高が毎日のように増え続け、来客数も減少し続けている。以前のような買替サイクルにはなっていないため、変わらないと判断した。
		スーパー	現在、供給高及びGP高は前年より好調に推移しているが、前回同様、商品の値上げによる商品単価上昇で作られた実績であり、買上げ点数及び客数は横ばい～微減となっており構造的には良くないため、変わらないと判断した。
		農産物直売所	直売所の客層は年金暮らしの高齢者が多い。物価の高騰により、来店頻度が減少していることには変わりがないため、3か月前と変わらないと判断した。
		小売業（生花店）	販売想定が見通せないため、変わらないと判断した。
		レストラン	季節的要因である暑さの継続による人出の減少を除いて判断すると、特に大きな変化はない。
		都市型ホテル	前回同様、稼働率も良く売上げも良い状態を維持しているため、変わらないと判断した。本来、当施設は良い状態だったので元に戻ったものと判断している。
		タクシー運転手	売上げがほぼ同じため、変わらないと判断した。
		ボウリング場	新型コロナウイルスが第5類感染症に移行後に盛り上がりを見せた客の動きだが、現在は停滞しているため、変わらないと判断した。電気代やガソリンの高騰等、様々な物価高によりレジャーに費やす金には慎重になっていると思う。
		理・美容店	人の動きや売上単価などあまり変わらないため、変わらないと判断した。
		住宅販売会社	3か月前と比較して不動産の客の動きは賃貸、売買ともほぼ横ばいのため、変わらないと判断した。
企業	農業関係者	米の収穫期を迎え、本年度の米価については前年度より1割程度上がったものの、資材価格の高騰、日用・食料品の値上げの中、財布の紐は固く、安価な商品を求める傾向にあり、景気・消費について良くなっているとは思えないため、変わらないと判断した。	

変わらない	企業	農業関係者	9月期（初旬まで）の来客数・客単価を6月期と比較すると、両者ともほぼ変わりはない。これは毎年の傾向である。前年同期と比較すると、ほぼ変わりはない。
		製造業（食料品）	客数も売上単価も変わらないため、変わらないと判断した。
		製造業（飲料）	新型コロナウイルス感染症が相変わらず収まっていないことや、天候が変わらず暑さが続いていることなどからも、3か月前と大きな変化はないと思うので、変わらないと判断した。
		製造業（印刷・同関連業）	受注が伸び悩んでいるため、変わらないと判断した。物価の上昇により廃止や数量の削減される物件が多数ある。
		建設業	資材高騰により、変わらないと判断した。
		金融業	新型コロナウイルスの影響が薄れ、企業活動がコロナ禍前の状態に戻りつつあるが、エネルギーコスト、原材料コスト上昇が依然続いており、取引先である中小零細事業者は販売価格への転嫁が難しく、収益力の低下に悩む経営者の声が多く聞こえるため、変わらないと判断した。
		不動産業	3か月では変化は見られない。 不動産仲介事業からの景況感是不変ならないと判断した。県南地域は賃貸・売買ともに不動産の流通が引き続き活発で、賃貸では家賃、売買では単価の値上がりが続いている。ただし、供給が需要に追いついておらず、紹介する土地や空室が足りていない。
雇用	学校就業関係者	求人受付件数が直近3か月で72件増加したが、全同時期とほぼ同数であり、雇用情勢は横ばいと判断する。	
	求人開拓員	相変わらず、食品価格・原油価格が上昇しており家計を圧迫しているため、変わらないと判断した。客の事業所へ訪問しての話題が、ほぼ物価の話題と人員不足の話題に終始している。	
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	物価が上昇し続けており、ガソリン代も高くなり買物や旅行などもなるべく控えるようになってきているため、やや悪くなっていると判断した。
		小売業	残暑が厳しく、主力のファッション・雑貨の秋物へのシフトが停滞しているため、やや悪くなっていると判断した。また、光熱費の高騰、物価の上昇に伴い消費意欲が低迷していると感じる。一方、新型コロナウイルスによる影響も落ち着き、旅行関連は2019年以上の売上げとなっており、世の中の外出気運は高まっているので気温の低下とともに、秋物の動きも出て来ると思われる。
		食堂	7～8月前半は客も多かったが、後半の盆過ぎ頃から客の減少が目立つようになったため、やや悪くなっていると判断した。
		ゴルフ場	季節的要因は考えないとしても、ニュースでも報じている非常事態的な暑さ、線状降水帯による大雨に及ぶ遊行の中止、電車の不通等、娯楽や旅行の早期切り上げなど景気に悪い影響は出ていると思われるため、やや悪くなっていると判断した。
企業	製造業（食料品）	売上げは堅調に推移している。製造に関する原料単価、配送に関する燃料費の単価が上昇している。特にガソリン代の上昇で経費増加に繋がっている。経費上昇の割合が大きく、景気がやや悪くなっていると判断した。	
	製造業（窯業・土石製品）	原燃料費の高騰のため、やや悪くなっていると判断した。	
	建設業	入荷の遅れ、資材全般値上げ等により品不足があるため、やや悪くなっていると判断した。	
雇用	民間職業紹介業	受注減少のため、やや悪くなっていると判断した。	
	求人広告	求人掲載数は減ったが求職者からの応募数が増えているため、やや悪くなっていると判断した。	
悪	家計	テーマパーク職員	6月の売上げ前年比が減少傾向にあるため、悪くなっていると判断した。
		理・美容店	周りの美容室と比べて当店が企業努力が劣っているため、悪くなっていると判断した。

(5) 県西地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント	
良	家計	和食レストラン	ランチタイムに関して客が増えたため、良くなっていると判断した。	
やや良くなっている	家計	小売業（酒類）	10月からの値上げ商品がたくさんありその駆け込み需要があるため、やや良くなっていると判断した。	
		日本料理店	予約が増えた。2～3人の客から、8～10人の来店が増えた。客単価がアップしているため、やや良くなっていると判断した。	
		都市型ホテル	新型コロナウイルスの影響が薄れつつあるため、やや良くなっていると判断した。	
		旅行代理店	2020年からのコロナ禍より、観光、旅行関連はやっと上向きの兆しが出てきたため、やや良くなっていると判断した。	
		ゴルフ場	季節的要素もあるが、客数が増加しコロナ禍明けの雰囲気を感じるため、やや良くなっていると判断した。	
		商店街代表者	旅行・イベント等の開催等により市民の行動範囲も徐々に拡大している。また、飲食においては宴会等のまとまった客層が増加しているとの話が多くなってきたため、やや良くなっていると判断した。	
		設計事務所	問合せが多少多くなっている。施工関係者からの依頼も増加傾向にあるため、やや良くなっていると判断した。	
	企業	製造業（金属製品）	今月に入り長期的な仕事が来たため受注量が増えているので、やや良くなっていると判断した。	
		不動産業	事業用の物件に動き（賃貸・売買いずれも）が見られるようになってきたため、やや良くなっていると判断した。	
	雇用	求人開拓員	求人数が増加してきているように感じるため、やや良くなっていると判断した。パート職より正社員の方が求人数が多くなっている。	
	変わらない	家計	商店街代表者	3か月前と変わらないと判断する。運動会シーズンのため、ジャージ（小・中）を買いに来る客は増えている。
			商店街代表者	肌で感じるため、変わらないと判断した。
			スーパー	商品の値上げが続いて客の節約思考は依然として続いているが、商品単価上昇による客単価は増えているため、変わらないと判断した。
家電販売店			当店の客数は減少しており、必要不可欠な家電の選び方は依然として価格のリーズナブルな商品を選ぶ傾向が続いているため、3か月前の状況と変わらないと判断した。	
自動車販売店			3か月前の状況と変わらないと判断した。全ての物価（特に燃料や電気）が上がっている。	
小売業			仕事がない、または、仕事が増えて忙しいなどという話を聞かないため、変わらないと判断した。	
タクシー運転手			利用客の状況から、変わらないと判断する。	
タクシー運転手			駅からタクシーに乗る客、電話でタクシーを依頼する客、共に横ばい状況であるため、変わらないと判断した。	
道の駅			変わらないと判断した。正直、観光事業も新型コロナウイルス感染症の第5類移行と共にライバルが増えてしまった状況である。	
道の駅			世間一般の状況が変動していないように感じる。当社もそれに伴い、3か月前と比較してもあまり変わっていないように感じるため、変わらないと判断した。	
レジャー施設			3か月前と変わらないと判断した。売上げが施設によっては減少傾向である。	
レジャー施設			物価が引き続き上昇しているが、消費の動向は恐れていたよりは影響が少なく感じるため、変わらないと判断した。	
理・美容店			道の駅のオープンなどで活気づいているが、客の様子などを見てもあまり変化は見られないため、変わらないと判断した。	
企業		農業関係者	3か月前に引き続き、世界情勢や為替相場の変動により、生産資材価格が不安定である。野菜や果実価格は昨年比を若干上回って推移するものの、高騰する資材費をまかなえるだけの販売価格には至っていないため、変わらないと判断した。	
		製造業（窯業・土石製品）	各種景気良化の報道は見るが、具体的な受注増等は見られないため、変わらないと判断した。	
		製造業（電気機械器具）	3か月前に引き続き、材料や仕入部品、副資材等の上昇、高止まりにより収益が悪化している状況から変わっていない。	
		製造業（電気機械器具）	3か月前の調査以降、勤務変更や人員増減の要望が落ち着いているため、変わらないと判断した。	

変わらない	企業	製造業（金属製品）	ロボット関連は順調であるが、電力・通信部門は低調である。例年に比べて新規の引き合いが少ないように思えるため、変わらないと判断した。
		製造業（化学工業）	一時期よりも在庫消化は進んできたものの、国内・海外を問わず需要が上がり受注が低迷した状態が続いているため、変わらないと判断した。
		建設業	特に変化を感じない。
		サービス業（コンサルタント業）	上向き傾向にあると思うが変化は見られないため、変わらないと判断した。
	雇用	求人広告	茨城県内の最低賃金が42円アップすることを受け、他の物価高騰の影響と併せて「厳しい」という声が多く、一旦は現状維持でという事業者は多い印象があるため、変わらないと判断した。
		人材派遣業	製造や物流関係の企業では繁忙時期を除いてもやや依頼が減っているが、観光やサービス業では依頼が少しずつ増えてきたため、全体的には変わらないと判断した。
学校就業関係者		変わらないと判断した。企業からの求人数は昨年と同じようであるが、県内からの企業よりも、県外からの企業求人数が多くなった。	
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	売上げに関して、3か月前と比較して今月の前年比が悪化しているため、景気はやや悪くなっていると判断した。
		農産物直売所	食料品を始め、ガソリンの価格が高騰しており生活を圧迫しているため、やや悪くなっていると判断した。
		レストラン	今の時期は暑いし、特に今年の暑さは長くて大変だった。ドッグランの利用は少なく、売上げは他の月の半分だったため、やや悪くなっていると判断した。
		食堂	物価高騰により買控えて生活している様に感じるため、やや悪くなっていると判断した。
		観光型ホテル	新型コロナウイルスに対する規制が解除されたと言ってもマスクを安心して外せる状態ではなく、状況は以前となら変わるものではない。テレビなどの情報を見ても、毎日新型コロナウイルスの動行が報道されていて、海外からの客が増えていることは確実である。宿泊客も大きなホテルは増えているようだが、地方の一ホテルとしては以前と何ら変わるものではなく、団体客も特別に増えてはいないため、やや悪くなっていると判断した。一末の不安があるので、団体行動はまだまだ増えないだろう。
	企業	農業関係者	水道光熱費や燃料費、人件費と費用が増大しており、経営を圧迫しているため、やや悪くなっていると判断した。
製造業（食料品）		食料品など値上げが続いているため、やや悪くなっていると判断した。	
製造業（窯業・土石製品）		あらゆる購入品の値上げにより利幅が減っており、原油や光熱費の高騰も先を見通せないため、やや悪くなっていると判断した。	
製造業（印刷・同関連業）		ガソリンの値上げ、電気料金の値上げが収益を圧迫しているため、やや悪くなっていると判断した。	
製造業（その他）		当社の受注は全て親会社からのものだが、受注量が減っているため、やや悪くなっていると判断した。	
金融業		依然として電気代は高止まりしている。また、ガソリン代を含めた燃料費が高騰し、運送業が多い県西地区において、個人及び法人の資金繰りを圧迫している状況であり、短期的にはやや悪くなっていると判断した。	
悪	家計	製茶販売	値上げがひどい。燃料代・電気代・卵から始まり、野菜・魚・肉どれをとってもみんな値上がっているため、悪くなっていると判断した。その分、給料が上がることもなく、明るい未来はないだろう。

Ⅲ 景気の判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 県北地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	観光型ホテル	現在、体験王国いばらき割の開始待ちで、多くの客から問合せがあり、紅葉シーズンに向けてのツアー団体客の予約が多く入っているため、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	アフターコロナの後、物価高騰が景気を冷やしていると考える。少し経てば落ち着くであろうと考えるため、やや良くなっていると判断する。
		スーパー	原材料などの値上げの影響により節約傾向ではあったが、この数か月の客単価を見ると伸びているため、やや良くなっていると判断する。
		小売業（食料品）	期待の意味も込めて、やや良くなっていると判断する。ガソリンの値段等が落ち着けば、違ってくる。
		小売業（弁当・惣菜店）	徐々にではあるが人の流れが回復しているとみられ、今後もこの回復基調は続くこと期待できるため、やや良くなっていると判断する。
		日本料理店	団体客の予約が入り、外国人客が来店し始め、10月から最低賃金が大幅に上がるため、やや良くなっていると判断する。
		観光型ホテル	日帰り宴会利用や昼食利用が今年の同月よりも増加傾向にあり、今後も増え続けることが予想される。旅行や外食の機運が高まることにより、消費が増加し様々な産業の景気が良くなるように思われるため、やや良くなっていると判断する。
		レジャー施設	まず、関連企業の動向が活発になっている。資本投資が行える資金的余裕や事業拡大が見受けられる。弊社では広報活動の結果も出ており、SNS等の利用報告でも観光業は上昇傾向にある。また、取引企業ではステルス値上げを行っており軒並み増収している。価格高騰が止まらない中でも、消費者の価格帯への慣れが出始めるころであり、さらに支出増となるため、やや良くなっていると判断する。
		ゴルフ場	体験王国いばらき割が開始され、来県者数の増加が見込めるため、やや良くなっていると判断する。
		ゴルフ場	台風13号による被害状況が回復してくると思われるため、やや良くなっていると判断する。
		設計事務所	周辺の動きが以前より活発になってきた現在の状況から、やや良くなっていると判断する。具体的には理由はない。
企業	企業	林業関係者	時期的なものもあるが少しずつ持ち直す期待を込めて、やや良くなっていると判断する。
		製造業（食料品）	季節的なもので例年年末に向けて消費が増えていく傾向があるため、やや良くなっていると判断する。
		製造業（化学工業）	化学業界等の注文状況から回復の兆しがあるため、やや良くなっていると判断する。
雇用	求人開拓員	10月から最低賃金も上がり、あらゆる業種でも景気が良くなると考えているため、やや良くなっていると判断する。	
変わらない	家計	コンビニエンスストア	物価上昇が落ち着いたとしても、月給制の場合、収入の増加も見込めず、最低賃金上昇分を差し引いたとしても、上向きな心理にはならないため、変わらないと判断する。
		自動車販売店	人の動きが活発になり購買意欲、消費意欲が上がっているが、原油高騰、原価高騰により物価上昇で生活費が圧迫されるため、変わらないと判断する。
		小売業（酒類）	以前より飲食店も少しずつ活気が出来たように感じるが、景気が良くなった回復とまではいかないため、変わらないと判断する。
		小売業（水産物）	客単価が上がらず、必要最低限の買物客が目立つため、変わらないと判断する。
		レストラン	売上げは伸びると思うが、単純に値上げの影響もあるため景気が良くなるとは考えにくい。希望としてはコロナ禍が明けての年末を迎えるので、この時期だけで考えると伸びると予想する。ただ、景気が良くなったとは言いにくいいため、変わらないと判断する。
		スナック	身の回りで購入してる人も多し、国道245号線を散歩していると新しい車が増えたと思うが、景気が良くなったとは言いにくいいため、変わらないと判断する。
		タクシー会社	現在の状況で推移するため、変わらないと判断する。
		タクシー運転手	夜間の飲食店は家族連れの外食産業に若干増加傾向にあるが、飲み屋街はまだまだ不況のままに見えるため、変わらないと判断する。
		写真店	消費活動の大きな変化はない様子。一方で物価高傾向は引き続き変わらない傾向で、なかなか購買意欲は高くなってきていない印象のため、変わらないと判断する。
		企業	企業
製造業（電気機械器具）	液晶・半導体製造装置関係、建設機械関連において注残が多い状況が当面続く見込みのため、変わらないと判断する。		
製造業（電気機械器具）	現状では第3クォーターではメイン製品（都市）が多少生産計画がアップする一方で、その他の分野であまり伸びが無いため、変わらないと判断する。		
製造業（精密機械器具）	当面、良くなっている業界とそうでない業界が半々である今の状況は、変わらないと判断する。		
製造業（精密機械器具）	受注量の増加が見込めないため、変わらないと判断する。		
製造業（その他）	国の補助等救済措置により多少緩和されると見られるものの、値上がり傾向は変わらず、円安の改善やウクライナの状況も急激な変化は見られないとみているため、変わらないと判断する。		

変わらない	企業	建設業	先行きについても、前向きな設備投資の話は聞かないので、変わらない判断する。
		金融業	総体的な経済活動はコロナ禍中と比較して緩やかながら上向いているも、当面は各企業とも収益確保に苦慮、昨今の物価高騰の中で個人消費も伸び悩みが続くものと思われるため、変わらないと判断する。
やや悪くなっている	家計	スーパー	10月より最低賃金が上昇することに伴い、企業としては厳しい状況が続くと思われるため、やや悪くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	季節的に気温が下がり、県外からの客が減少するため、やや悪くなっていると判断する。
		衣料品販売店	当店は年金生活者の来店が多く年金の受給額が上がらなければ洋服まで買おうとしないため、やや悪くなっていると判断する。給料が物価高よりも上がって欲しい。
		小売業（時計）	ネットでの購入（特に腕時計）が多く、客数の減少が続くと思われるため、やや悪くなっていると判断する。
		ドライブイン	どの業界も値上げしないとならない状態。コスト、光熱費、賃金も上がっているため、やや良くなっていると判断する。
		ゴルフ場	今後、特に気候が原因の物価高騰が止まらないと思われるため、やや悪くなっていると判断する。
	企業	製造業（電気機械器具）	取引先の主要機器が2025年3月で生産を終了するとのことで、今後受注量は大いに下がるため、やや悪くなっていると判断する。
		建設業	ウッドショック後の値上がりから価格高騰や人材不足の影響そして建築基準法の改正等で来年3月までは倒産などが増えると予想されるため、やや悪くなっていると判断する。
		非製造業（その他）	経費の増加。景気の減衰のため、やや悪くなっていると判断する。
	雇用	求人広告	10月から最低賃金が上がることで企業・店舗側の人件費に関してはよりシビアになることが予想され、募集数の減少、採用のハードルが高くなることにより採用市場は鈍化すると思われるため、やや悪くなっていると判断する。
公共職業安定所		直接雇用が減り、人員の削減が進み、生産の低下に拍車がかかるのではとの危惧がある。また、人員確保がより難しくなっているのではないかと。労働力の流出、特に若年者の流出が危惧されている。これにより消費の低下が懸念されるため、やや悪くなっていると判断する。	
学校就業関係者		取引先などからの会話から、やや悪くなっていると判断する。	
悪	家計	美容室	インフレ率は更に上昇し、更なる消費の低下のため、悪くなっていると判断する。
	企業	不動産業	物価の高騰が続き、政治の介入が遅く3か月後に景気が回復するとはとても思えないため、悪くなっていると判断する。

## (2) 県央地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業	製造業(食料品)	現在みられる新型コロナウイルスによる影響も落ち着くと思われるため、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	小売業	年末に向け、消費行動の更なる活発化が予想される。物価や燃料の高騰が懸念されるが、全体的には上向きになるとと思われるため、やや良くなっていると判断する。
		日本料理店	新型コロナウイルス感染者がまた少し増えてきているが、制限などは無いと思うので、移動制限がかからなければ問題ないと思うため、やや良くなっていると判断する。
		割烹料理店	年末に期待をこめて、やや良くなっていると判断する。
		理・美容店	期待を込めてやや良くなっていると判断する。
		住宅販売会社	完工棟数も見えているため、やや良くなると判断する。
	企業	製造業(印刷・同関連業)	3か月先となると例年での受注活動が活発となるので、希望的な感想でもあるが期待したいため、やや良くなっていると判断する。
		製造業(金属製品)	欧州EV需要を始めとした自動車の電動化関連の製品で、今後の3か月内示数が増加しているため(5~10%ほど上振れ)、やや良くなっていると判断する。
		建設業	様子見の状況から以前と変化を求めて業務展開するのではと思うため、やや良くなっていると判断する。
		運輸業	徐々に、顧客製品の出荷台数も増えて、やや良くなっていると判断する。
	雇用	求人開拓員	当所利用者の減少傾向に加え、求人数の増加も見受けられるため、やや良くなっていると判断する。
変わらない	家計	商店街代表者	平常の生活に戻ってきたと感じる一方、あらゆる商品が値上げがされており物価高を強く感じる。念願の新型コロナウイルスの終息だが、プラスマイナスゼロとなってしまうと思うため、変わらないと判断する。
		商店街代表者	年末需要は期待しているが構造的な不安要因はすぐには解消できないため、変わらないと判断する。
		スーパー	3か月後を見据えると年末商戦があるが、今回の8月の盆商戦はコロナ禍明けという事もあり、帰省需要もあったのか供給伸長が見られた。この傾向からすると一定の帰省需要は発生すると推察されるが、一時的な需要で景気は変わらないと思ったため、変わらないと判断する。
		スーパー	新型コロナウイルスに対する規制がなくなり、クリスマス・年末年始の需要を期待したいが、商品価格の高騰で買控えの恐れがあるため、変わらないと判断する。
		コンビニエンスストア	人の動きは増加傾向にあると思うが、物価高が影響してプラスマイナスゼロかと思うため、変わらないと判断する。
		コンビニエンスストア	大きな市場変化は無く、良い意味で現状の状況が続くと考えているため、変わらないと判断する。
		酒・各種商品小売業	ある程度人々が活発に動き出したが、物価の上昇も大きく客も価格に敏感になっているため、変わらないと判断する。
		小売業	物価高、燃料費高などマイナス要因が多く、今とさほど変わらないと判断する。
		楽器販売	流石にそこまで右肩上がりではないかと思われるため、変わらないと判断する。
		自動車販売店	電気、ガソリン等がすぐ改善されるとは思えないため、変わらないと判断する。
		農産物直売所	来場者、レジ通過人数が平年と比べて安定してきているため、変わらないと判断する。
		観光型ホテル	現在がコロナ禍前の水準になっているため、それ以上に良くなるとは思わないため、変わらないと判断する。
		旅行代理店	当社業界においては円安・燃料等が落ち着かない限り良い方向に動くとは思えないため、変わらないと判断する。
		バス運転手	新型コロナウイルス感染症拡大の影響はほぼ無くなったと思うが、あらゆるものの、モノやサービスの価格が上がってきていることが消費意欲を低下させてしまうのではないかと懸念もあるため、変わらないと判断する。
		タクシー運転手	このところの燃料費高の影響により、利益率は減少傾向にある。9月に運賃改定があるが、客減りは避けられないため、景気は変わらないと判断する。
		レジャー施設	現在上向きの傾向であり、今後もこの状況が維持されるが、原材料費やガソリンの高騰を受けて、このまま推移すると思われるため、変わらないと判断する。
		スーパー銭湯	コロナ禍で関連業種(温浴施設、飲食店など)の閉店や時短などがあり、コロナ禍前に比べ店舗数の減少や短い時間での営業をしている店舗が減っているため、しばらくは現状維持かと思うため、変わらないと判断する。
		ゴルフ場	コロナ禍も落ち着きレジャーの多様化により屋外レジャーは横ばいと見るため、変わらないと判断する。
		写真店	新型コロナウイルスの影響は少なくなっているが、やはり物価の高騰が収まらないとまだまだ良くはならないため、変わらないと判断する。
		設計事務所	原油価格の高騰や円安の状況はさらなるインフレの原因になる。しかし賃金の上昇と併せて好循環を生みだせば「いよいよデフレ脱却か？」との期待もあり、現在の日本の株式市場は買われていると聞く。受注状況を見ても景気に大きな変化は感じられないため、変わらないと判断する。
企業	製造業(一般機械器具)	鋼材やステンレス等の材料、油類、電気など原油価格高騰の影響により値段の高止まりで経営に悪い影響がある状況が引き続くため、変わらないと判断する。販売価格に反映できない。	

変わらない	企業	製造業（輸送用機械器具）	エネルギーコスト等により消費が落ち込む懸念があるため、変わらないと判断する。ただし自動車生産については、今後3か月先の確定受注は既に織り込まれており、大きな修正は無いと思われる。
		製造業（精密機械器具）	変わらないと判断する。3か月先がどうなるか分からない。
		金融業	購買意欲等消費者行動の活発化が期待されるが、物価上昇に対し賃金上昇が追いついておらず、小売・飲食業などは状況に変動ないものと思慮されるため、変わらないと判断する。
		不動産業	概ねあまり変化はないと思うが、円安による材料費・燃料費の影響は大きく、商品価格は値上げ傾向に変わらない。個人所得は、それに見合った賃金高になっているとは言えないと思うため、変わらないと判断する。
		情報通信業（情報サービス業）	普段の仕事や客の様子は従来とあまり変わっていないため、変わらないと判断する。
雇用	公共職業安定所	管内の有効求人倍率を前年同月比で見た場合、ほぼ横ばいである状況、新規求人数もこれまでのプラス基調に陰りが見え、前年同月比でマイナスとなる月が発生する傾向は今後も継続すると思われるため、変わらないと判断する。一方で、事業所訪問時に会社の業況感を尋ねると、コロナ禍前に戻りつつあるとの話が多く、人手不足ではあるものの、景気が悪化傾向にあるとの話を聞くことはあまりない。	
	学校就業関係者	大学生の採用については企業の採用意欲も高い傾向にあり、数か月での影響は無いと思われるため、変わらないと判断する。	
やや悪くなっている	家計	都市型ホテル	現在の3か月先の予約状況は、伸び悩み状況である。忘年会のシーズンではあるが、まだ予約が良くなく現状より下がる予想されるため、やや悪くなっていると判断する。
		観光名所	経費増加が見込まれ利益率が減少すると予想されるため、景気はやや悪くなっていると判断する。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	3か月先の受注の目途が立っていないため、やや悪くなっていると判断する。
		運輸業（道路貨物運送業）	先の見えない燃料の高騰により、経費圧迫が予想される。荷主からは多少の価格改定を受け入れてもらっているが、燃料高騰の方が大きく上回ってしまうと考えられるため、やや悪くなっていると判断する。
雇用	求人広告	賃金上昇などの対応で経営状況の悪化が考えられるため、やや悪くなっていると判断する。	
悪	家計	割烹料理店	最近客の減少が進んでコロナ禍の頃に戻ったような状態が続いているので、このままこの先良くなるような気がしないため、悪くなっていると判断する。
		道の駅	悪くなっていると判断する。いいニュースがなく、増税や値上げなど悪いニュースばかり。戦争が終わるわけもなく、中国自体の景気も悪くなるし、中国が輸入規制を始めたので、これも経済的に悪い方向になるだろう。

## (3) 鹿行地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業	サービス業	国際情勢(ウクライナ、中国)、ガソリン価格高騰等の不安要素はあるものの、カーボンニュートラル対応等の新しい業務領域の活動は更に活発化しており、当面この流れは継続すると推定されるので、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	スーパー	これまでのコロナ禍から通常の日常に戻りつつある。盆シーズンでは帰省して戻ってきたからなのか、オードブルの注文が多かった。3か月後は、新型コロナウイルス感染者数のピークでも無い限りは、盆シーズン以上に帰省して戻って来る客が増えるのではないかと思う。そのことから、売上げは伸びると考えられるため、景気はやや良くなっていると判断する。
		スーパー	秋の行楽シーズンを迎え、更に人流が活発となると予想されるため、やや良くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	最低賃金の上昇から、やや良くなっていると判断する。
		農産物直売所	10月は、1か月間お客様還元月間としてミニイベントを実施する予定なので来客数の増加が見込めるため、やや良くなっていると判断する。
		洋食食堂	新型コロナウイルスに対する不安も少しずつ減り、飲食の席も増えると思うため、やや良くなっていると判断する。
		割烹料理店	多人数の予約も増えつつあり、予算も少し上がっている感じがするため、やや良くなっていると判断する。
		運転代行	3か月先、忘年会、クリスマスシーズンでもあり、人の動きも増えると思う。景気もやや良くなると判断する。
	企業	建設業	世界的なインフレやロシアの軍事侵襲から、一層のリスクが高まっている。一方、国内景気は不透明感はあるが、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したりと景気の回復基調が見込まれているため、やや良くなっていると判断する。
		保険業	金融機関の株価が少しずつ上がって来ているため、やや良くなっていると判断する。
	雇用	民間職業紹介業	車関係や半導体が復調の兆しが見えているため、やや良くなっていると判断する。
変わらない	家計	農産物直売所	インボイスのスタートなど、良くなる話がないため、変わらないと判断する。
		小売業(菓子類)	このところの原材料高も一服傾向であるが、特に売上げが増加することは考え難いため、変わらないと判断する。コロナ禍収束によるリベンジ消費も続かないと思う。
		小売業(薬品店)	新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行になり、報告義務も無くなりマスクをしない人も増えてきており、現在に引き続き今後も新型コロナウイルス陽性患者が増えると感じるため、変わらないと判断する。そうすると慢性疾患患者は医療機関に行くことを事態を減らし、医薬品の長期処方が増えるので来局患者は減る。
		小売業(食品)	変わらないと判断する。同業者に聞いても、同じ答えである。
		小売業	消費喚起策を打つため、販売量は増加すると思う。ただし、エネルギー価格を始め、物価の上昇はまだ続いており、多くの消費者が財布の紐を締める恐れもあるため、変わらないと判断する。
		和食レストラン	客の食に対するマインドがコロナ禍前に戻りつつあるが、団体顧客の集客には時間を要する込みであるため、変わらないと判断する。
		日本料理店	物価上昇で外食は控える傾向にあるため、変わらないと判断する。
		観光型ホテル	予約数を見ても人数の伸びがないため、変わらないと判断する。
		旅行代理店	秋の旅行シーズンになるため、来客数は多くなっているが利益率は減少傾向にあり、変わらないと判断する。
		ゴルフ場	昨年はコロナバブル、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した現在は、昨年の様な景観はないため、変わらないと判断する。
		ゴルフ場	引き続き物価上昇の影響を受けてレジャーに回す金額が減少してしまうと思われるため、変わらないと判断する。
		レジャー施設	物価の上昇、エネルギー価格の上昇、天候による災害などの影響により消費が伸び悩むため、変わらないと判断する。
		クリーニング店	どうなるか分からないため、変わらないと判断する。
		住宅販売会社	新築は商談案件がないため年末に向けて不安があることから、変わらないと判断する。盆明け以降、リフォームははコンスタントに問合せが増えてきている様子がある。
		住宅販売会社	変わりがないため、変わらないと判断する。
企業	企業	農業関係者	物価高の影響は引き続き続いており、今後もメーカーによる値上げ品目が多数予定されており、為替による円安や原油高などによる生産資材の生産コストを農産物販売に価格転換できない状況が続いているので、今後の景気判断についても変わらないと判断する。
		製造業(その他)	最低賃金や給与は上がっていくと思うが物価も同様に上がっているため、双方比較すると同程度の上昇に思われるので、変わらないと判断した。
		製造業(食料品)	給料が上がらない限り景気は良くなるため、変わらないと判断する。
		製造業(精密機械器具)	景気が大変良い状況がそのまま続きそうなので、変わらないと判断する。
		製造業(ゴム製品)	客からの3か月先の発注状況を見ると、変わらないと判断する。
		製造業(鉄鋼業)	景気が好転する材料は見当たらないため、変わらないと判断する。
金融業	経済諸要因から各種コスト増は依然続いており、現時点で早期回復は見込めない状況。また人材確保や販売単価引上げも難航しており、財務内容の安定には時間を要することが予想されるため、変わらないと判断する。		

変わらない	雇用	公共職業安定所	大企業において、求人申込の状況がやや良くなっているが、中小企業を含め、全体としてみると今年度の傾向に大きな変化はないため、変わらないと判断する。
		求人開拓員	最低賃金の改定で求人数・求職者数に変化があるか不明な点が多いが、人手不足が継続するため大きな変化はないものと思われるため、変わらないと判断する。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	原材料や燃料価格の高騰、それに加えて10月から最低賃金引上げとなるが、賃上げが物価の上昇に追いついておらず、購買意欲の向上に繋がるか疑問であり、事業所の売上は上がったとしても利益は減少傾向が続くと思われるため、やや悪くなっていると判断する。
		衣料品販売店	光熱費、食品等の生活必需品の値段がどんどん上がっている。特に田舎では車が必需品。ガソリンが高いことも影響しているため、やや悪くなっていると判断する。
		家電販売店	8月は猛暑であったが、夏物の売上げに繋がらなかった。通常であればエアコン等の売上げが伸びるはずが今年に限っては売れていない。必需品の売上げが下がってしまうと厳しい状況であるため、やや悪くなっていると判断する。
		タクシー運転手	今の状況では、景気は良くならない。人間同士お互いに助け合い戦争を早く終結しないかぎり無理。国々が仲良くなれば国が豊かになり、個人の懐も豊かになる。同じ人間同士仲良くしなくては良い社会にならないと思うため、やや悪くなっていると判断する。
	企業	製造業（金属製品）	海外の景気により、日本製品が売れていないため、やや悪くなっていると判断する。
		建設業	建築資材等の高騰や先行きの見えない状態での買控えが続くと予想されるため、やや悪くなっていると判断する。
		運輸業（道路貨物運送業）	燃料高騰、国からの補助金がなくなるためやや悪くなっていると判断する。
		不動産業	円安があまり変わらないと色々な面で物が再度値上がりして大変険しいと思うため、やや悪くなっていると判断する。
雇用	学校就業関係者	円安により観光関係は良いが、ガソリン、電気代の高騰で消費者の購買意欲は低下すると思われるため、やや悪くなっていると判断する。さらに、中国及び世界景気は減速傾向にあると思われる。	
悪	家計	小売業（書店）	物価が上昇してから客の来店数や購入数の減少が大きいと感じるため、悪くなっていると判断する。
		観光型ホテル	今後も物価上昇は止まらないと思われるほか人件費も上がるため、悪くなっていると判断する。

## (4) 県南地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント	
良くなっている	家計	洋食レストラン	毎日まじめに仕事をしているので、コツコツ売上げが伸びている。接客に関しても、スタッフ一同が客第一で考えておりリピート数が上がっている。なので、売上げもきっと上がると思うため、良くなっていると判断する。また、新メニューなど取り入れており、飽きの来ないメニューで客も楽しみに来店すると思う。	
		都市型ホテル	昨年は開催を控えていた企業も忘年会を実施される傾向になるので、12月は年末ということもあり、景気は良くなっていると判断した。ホテルとしては、1年で1番の繁忙期となる。しかし、ホテル従業員の人手不足が心配だ。	
		タクシー会社	入社の人數も増えてきており、景気はどんどん上がっていくと思うため、良くなっていると判断する。	
やや良くなっている	家計	食堂	グループの客が増えると思うため、やや良くなっていると判断する。	
		都市型ホテル	新型コロナウイルスが爆発的に感染拡大しなければ増加傾向で推移すると思うため、やや良くなっていると判断する。しかしながら、宿泊、宴会、レストランは2019年比で80%程度の戻り見込みだが、婚礼だけは未だ30%なので結婚式の戻りが鈍化している状況である。	
		タクシー運転手	料金の改定で売上げが伸びると期待するため、やや良くなっていると判断する。	
		サービスエリア	秋の紅葉やコキアの見頃を迎え、観光客による賑わいが予想される。個々の人の景気の差が大きくなるかもしれないが、総合的には景気はやや良くなるかもしれない。	
		ゴルフ場	現在と比べれば明るい話題も聞くようになり、先の予約もかなり入ってきており、11～12月の土日などは予約がもう埋まっている日もあるので、やや良くなっていると判断する。	
	企業	製造業（飲料）	年末に向けて、客も各イベントの準備や集まりが増えているため、やや良くなっていると判断する。	
		製造業（窯業・土石製品）	3か月前と大きく変わらないと考えているため、やや良くなっていると判断する。	
		運輸業（倉庫業）	まだまだ物価上昇は止まらなそうなので、商品単価の上昇により費用も増えるが売上げも増えていくと見込まれるため、やや良くなっていると判断する。	
	雇用	学校就業関係者	求人受付件数は横ばいだが、学生の内定時期が昨年より早まっており、雇用活動が活発になっていると感じるため、やや良くなっていると判断する。	
	変わらない	家計	スーパー	今後も商品の値上げは予定されているが、前年比売上げ、前年比客数が同等レベルで推移している流れはしばらく続くと予想されるため、変わらないと判断する。
家電販売店			良くて現状維持だと思うため、変わらないと判断する。少しでも悪化していくと歯止めがかからないのではないかと思う。また、ガソリンの値下げをできなければ流通が関連する全ての費用が上がり、消費者にそのツケが回ってくる。	
コンビニエンスストア			収入が変わらない限り、現状の景気悪化は変わらない。	
農産物直売所			物価の高騰傾向は続いていると思うため、3か月後も変わらないと判断する。	
小売業			客単価は上昇しているが客数は極端な増加傾向にないことから、3か月後の景気もあまり変わらないと考えられる。コロナ禍で制限されていた旅行・冠婚葬祭への意向は引き続き高まると思われる。	
小売業（米穀）			インバウンド需要、富裕層の消費が増えているが、あらゆる商品の値上げ、再値上げ、再々値上げ等、家計を圧迫して一般消費者の需要は増えていないように思うため、変わらないと判断する。	
日本料理店			原材料高により利益率は減少する状況は、3か月先も変わらないと思う。	
レストラン			記念日、誕生日などコロナ禍以降の家族単位での外出は良くなっている反面、グループ、団体の人出について、団体数や一団体の人数については戻っていない。トータルで変わらないと判断する。	
テーマパーク職員			このところのガソリンや物価高騰は今後も下がる見込みはないため、3か月先の景気も変わらないと判断する。	
ボウリング場			様々な物価高で消費意欲が停滞しているため、変わらないと判断した。	
レジャー施設			景気が変わるような要因が考えづらいため、変わらないと判断する。	
理・美容店			収入が変わらないのに全体的な物価高になったことにより消費者は消費を控えるため、変わらないと判断する。	
理・美容店			戦争や中国の情勢が変わらないため、変わらないと判断する。	
住宅販売会社			賃貸、売買ともここ数か月大きな動きはなく今後も同じような動きになると考えられるため、変わらないと判断する。	
企業			農業関係者	今後の景気回復の要素が見当たらないため、変わらないと判断する。
			製造業（食料品）	ガソリン代の補助金が継続されるとの事。ガソリン価格が下がれば経費削減が期待できる。現状から考えれば売上げが下がる要因は少ないと考える。その他の製造に関する原材料価格の推移が不透明なのが不安要因。売上げの堅調と原材料・燃料費の不安定性を考慮して、変わらないと判断する。
			製造業（食料品）	景気変動の様子が見当たらないため、変わらないと判断する。
	製造業（印刷・同関連業）	旅行や飲食店の利用、イベント開催などの回復・復活がニュースなどで散見されるが、仕入れ価格の上昇が続くように思えるため、変わらないと判断する。		
	製造業（非鉄金属）	今後3か月においては、新型コロナウイルスの感染拡大や半導体の流通が滞らなければ、高生産の状況は維持されるものと思われるため、変わらないと判断する。		
	製造業（その他）	まだ先のことが分からないため、変わらないと判断する。		
	建設業	これから先も、入荷の遅れ、資材全般値上げ等により品不足がある状況が続くため、景気は変わらないと判断する。		

変わらない	企業	金融業	物価上昇への対抗策や企業努力が各企業に見られ、取引先の事業者の活動は少しずつ活発化しているように感じられるが、思うように売上げ、受注増加に転じていない事業者も多く、全体的には3か月先の景気は変わらないと判断する。
		不動産業	不動産業では景気回復をすぐに実感できないため、変わらないと判断する。
		不動産業	不動産仲介事業からの景況感は変わらないと判断する。県南地域は賃貸・売買ともに不動産の流通が引き続き活発で、賃貸では家賃、売買では単価の値上がりが続いている。ただし、供給が需要に追いついておらず、紹介する土地や空室が足りていない。単価の上昇と在庫の減少のバランスによる。
雇用	求人広告	現在、年末、年明けに向けた採用活動をおこなう企業が見受けられないため、変わらないと判断する。また、最低時給改定により経営者の方からも厳しい声も聴こえる。	
	求人開拓員	客の事業所へ訪問しての話題が、ほぼ物価の話題と人員不足の話題であることは変わらないのではないかとと思われるため、変わらないと判断する。事業所の方（ほとんどが中小企業）との話の内容は、人件費は、今回の春のベースアップより物価の高騰の方が遥かに大きく、実質賃金がマイナスと言っていた。賃上げの話題は、ほとんどが大企業だったような気がする。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	今年の猛暑の影響で、農作物が出来が悪く市場に出回らなくなるのが心配だ。また、新型コロナウイルス感染者も増え続けているので、何らかの影響があると思うため、やや悪くなっていると判断する。
		スーパー	商品単価が上昇し、買上げ点数・客数減の構造で作られた実績は長続きしないと思われる。また酒税改正等、値上げラッシュはまだまだ継続するとの報道もあり、消費者の節約志向がより強まる想定のため、やや悪くなっていると判断する。
		小売業（生花店）	仕入れ価格の上昇に伴い販売価格も上昇しているため、一般消費者が考えている値段と商品価格との乖離が大きくなり、商品販売低迷が予想されるため、やや悪くなっていると判断する。
		都市型ホテル	現在が良い状態なので何とかこの状態を維持して行ければと思うが、世の中、そんなに甘くない。ある程度客足が減っても不思議ではないため、やや悪くなっていると判断する。
企業	農業関係者	企業が生産する商品については、引き続き原料・燃料・人件費等、固定費の上昇が価格転嫁されると考えられ、物価の高止まり、もしくは更なる高騰が想定される。これらを考慮すると、小規模事業者の就業者（農家を含む）については、今後において景気はやや悪くなっていると判断する。	
	製造業（窯業・土石製品）	原燃料費の高騰に加え、為替の影響や消費者の購買意欲の減退のため、やや悪くなっていると判断する。	
	建設業	資材高騰、燃料費値上げ等による受注難のため、やや悪くなっていると判断する。	
雇用	民間職業紹介業	自動車・半導体系の生産が回復しないため、やや悪くなっていると判断する。	

## (5) 県西地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント	
良	家計	和食レストラン	忘年会シーズンに入り、3年ぶりに忘年会などを行う客が昼・夜増えると思われるため、良くなっていると判断する。	
	家計	都市型ホテル	新型コロナウイルスの影響が薄れつつあるため、やや良くなっていると判断する。	
		旅行代理店	2020年からのコロナ禍より、観光、旅行関連はやっと上向きの兆しが出てきており、先行きは期待が持てると思うため、やや良くなっていると判断する。	
		タクシー運転手	料金改定があるため、やや良くなっていると判断する。	
		観光型ホテル	やや良くなっていると判断する。良くなっていることを期待するが、現実には分からない。季節はずれのインフルエンザなどもあり、個人行動はあるとしても団体行動となると、まだまだ懸念しているのだと思う。暑さも相まってか団体客の予約はない。しかし、10月以降秋の行楽気分が多少はあるのではないかとと思う。	
		ゴルフ場	コロナ禍明けの傾向と予約来場予定数が前年より増加傾向のため、景気はやや改善の傾向と感じる。	
		商店街代表者	市民の行動範囲が徐々に拡大して推移していく予想ではあるが、まだまだ、密な場所を避ける傾向の方々も多くいるのも現状なので、急激な回復はないと感じるため、やや良くなっていると判断する。	
		設計事務所	周辺企業が人手が足りないと言っている。人材と仕事量のバランスが、仕事量の方が大きいと考えられるため、やや良くなっていると判断する。	
	企業	農業関係者	米や青果物の価格上昇により、農家組合員の収入が増えて、事業利用も増えると感じるため、やや良くなっていると判断する。	
		製造業（窯業・土石製品）	価格交渉で供給側の主張が受け入れられるようになってきたため、やや良くなっていると判断する。	
		製造業（金属製品）	確実ではないが増産を期待できる物があるため、やや良くなっていると判断する。	
		製造業（金属製品）	今月に入り長期的な仕事が来たため受注量が増えているので、やや良くなっていると判断する。	
	雇用	人材派遣業	年内にいくつかの物流会社で新倉庫の稼働開始があるため、雇用は少し増えると思うので、やや良くなっていると判断する。	
	変わらない	家計	商店街代表者	学生服シーズンに入るため、売上は見込めるが、渋い買い方をする客が毎年増えているため、変わらないと判断する。
			スーパー	物価高に対しての所得増の見込みが追いつかないと思う。節約思考が続くと考えるため、変わらないと判断する。
			家電販売店	当社でも給与昇給率は低く、物価上昇は収まる気配がないため、変わらないと判断する。
			農産物直売所	物価の高騰は変わらないと思う。
			レストラン	今は物価高であり人件費も上がっているため、売上げが上がっても変わらないと思う。
			日本料理店	来店数は増加しているが水道光熱費や材料、人件費が高騰して利益が残らない。材料の高騰を商品に転化できない（難しい）ため、変わらないと判断する。
			食堂	商品価格が値上がりしたものは簡単には下がらないと思うので、値上がりした分の企業利益が出て給料に反映されたり、仕事が忙しくなり残業などで給料が増えないかぎり、そう簡単には景気が変わってくるとは思わない。
道の駅			経費が嵩み、ベースアップが見込めないため、変わらないと判断する。	
道の駅			この先、景気が良くなるようなこともなく、現状維持なのではないかと思うため、変わらないと判断する。	
レジャー施設			客が少なく、見えない部分もあるが出費が増えているようには感じないため、変わらないと判断する。	
レジャー施設			コロナ禍の終息しきれない影響と、物価高で消費が上向いていくというより、足踏みの状態がしばらく続くと思うため、変わらないと判断する。	
理・美容店			地域的にも人口も相変わらず増加にはならないし、むしろ減っている。客の話から聞くのは、人がいない、辞めていくという声がかかり多いため、改善するとは思えないので変わらないと判断する。	
企業		農業関係者	光熱費の高止まりにより、依然として不透明であるため、変わらないと判断する。	
		製造業（食料品）	今後も良くなる要素がないため、変わらないと判断する。	
		製造業（電気機械器具）	材料や仕入部品等の高騰が今後も続くと思われるため、変わらないと判断する。	
		製造業（電気機械器具）	中・長期の予測は難しいが、勤務変更や人員増減の要望が落ち着いている状況は続くと思われるため、変わらないと判断する。	
	製造業（印刷・同関連業）	3か月後も変わらないと判断する。デジタル化の進行に伴い、アナログの印刷物が少なくなってきた。		
	製造業（化学工業）	主要である商品の景気が低迷しており、現状では回復の兆しが見られない。少なくとも今年度中の回復はないと予想しているため、変わらないと判断する。		
	建設業	特に変化を感じない。		
	金融業	燃料費等の経費が以前の水準に戻るとは考えにくく、変わらないと判断する。		
雇用	求人広告	物価高騰・最低賃金アップ・人口減少の問題は、時間が解決してくれる問題ではないと思うため、変わらないと判断する。		

変わらない	雇用	学校就業関係者	求人企業は多いが、紹介できる生徒が少なく、人手不足が続くと思われるため、変わらないと判断する。
		求人開拓員	変わらないと判断する。就活セミナーの参加者、採用決定者が緩やかに増加しているように感じる。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	新型コロナウイルス感染者が増えていると聞く。中国の不景気、処理水等、我々をとりまく環境にプラス指向がないため、やや悪くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	物価の上昇が続いているため家計が厳しくなっており、最低賃金の上昇はあるが可処分所得が増えにくい状況であり、景気の改善には繋がっていかないとと思われるため、やや悪くなっていると判断する。
		小売業（酒類）	値上げ前の駆け込み需要が収まれば必然的にその後の動きはなくなってくるため、やや悪くなっていると判断する。
		小売業	色々な物が値上がりしているため、やや悪くなっていると判断する。
		タクシー運転手	タクシーの燃料の高騰が不安なため、やや悪くなっていると判断する。
		クリーニング店	猛暑の年度はお洒落着の利用が少ないため夏物需要が減ると予想されるため、やや悪くなっていると判断する。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	原価高騰部分を売上げに転嫁しにくく、最低賃金の引上げも予定されているため、やや悪くなっていると判断する。
製造業（その他）		3か月先予測の親会社からの発注量が少ないため、やや悪くなっていると判断する。	
悪	家計	自動車販売店	今後、燃料費がかかる時期になるが、とても下がるとは思えず、消費は伸び悩むと思うため、悪くなっていると判断する。
		製茶販売	燃料代はもっと上がるだろう。値下げはない。給料の大幅アップもしないのに良くなると思えないため、悪くなっていると判断する。

### Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

#### (1) 県北地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	高額品が中々動かなくなってきた。
	スーパー	盆の時期より果物、シャインマスカット、価格的に1,000円以上する商品やぶどう類など、昨年より伸びている。価格的にはあまり気にせず、美味しい商品を買う客が少しずつ増えてきているのだろうか。
	スーパー	ディスカウントスーパーの売上げが好調な話をよく聞くので、物価上昇とディスカウントスーパーの業績は比例して大きくなると思われる。高齢者および施設関係の配達需要が年々増えてきている。それだけ生鮮食品を運んでくれる個人店が減っている。
	コンビニエンスストア	昼食時の金額を維持するために、今までよりも買う商品数を減らすようになった。
	小売業（弁当・惣菜店）	夜の飲食店では景気の回復を感じる事が出来る。ただ、タクシーなどのサービス業は人手不足の影響が出ているようだ。また、最低賃金の大幅な上昇は今後の収支状況の影響に不安視されている。併せて飲食サービス業の人手不足は更に進む恐れがある。諸物価の上昇と合わせてこれらの経費の価格転嫁の理解が必要だと思う。
	衣料品販売店	今年は特に安い物に手が出るようだ。
	小売業（酒類）	買う物をじっくり考えて購入している客が増加しているように感じる。
	小売業（水産物）	物価高騰の影響が、購買欲を抑え込んでいる。
	小売業（時計）	商店会の若手の動きがあり、子供連れの若い人々が祭りなどイベントで特に大勢来街している。ただ、若い人達でネットを利用する人が多いため、当店の様な販売には不向きかもしれない。
	スナック	居酒屋は賑わっていても、2次会のスナックに流れる人は劇的に減った。
	日本料理店	色々な行事、イベントが再開され始めた。
	観光型ホテル	8月末から報道しているALPS処理水放出の件で問合せもあったが、その影響か、多くのキャンセルが目立つようになってきた。それが、一番心配していることである。
	観光型ホテル	外出先での人出が増え、レジャー施設や商業施設も混雑しているため、景気が上向きになっているように感じる。物価高の継続が景気を下げることになるのか心配だ。
	旅行会社	特に大きな変化はない。
	レジャー施設	日常の買物においては、マスクをしない人が増えコンビニエンスストアやスーパーマーケットの列も増えているように感じる。また、繁華街での人流も増えているように感じるため、観光としての外出より日常的な外出が増えているように感じる。だが、ガソリン代などの燃料費等の価格高騰により生活に直結する部分も多く、支出先の厳選があるように思えるため、より厳しい競争が生じている。
	ゴルフ場	新型コロナウイルスに対する行動制限がなくなり、季節感も相まって開放的に見受けられる。
	ゴルフ場	物価高の影響により、節約傾向がみられる。また、支払いについて、カード会社のポイントを利用するなどして現金の支出を減らしているように感じる。
	写真店	格差社会なのか消費活動も二極化の傾向がみられる。
美容室	物価は上がるが収入は上がらないスタグフレーションに突入してるので、更なる景気の悪化は避けられないだろう。	
設計事務所	今までより人の動きが出てきたように感じる。	
企業	林業関係者	物価高騰は大きく収益に関わりつつある。人件費の賃上げにも利益幅の少ないところからでは少々厳しい。
	製造業（電気機械器具）	以前は納期が見通せない物品があったが、最近は落ち着いてきている。近隣のショッピングモール等で客が増え、購入額も増えているように感じる。
	製造業（電気機械器具）	間接的に中国への輸出が高い割合を占めるので、不動産不況や処理水問題など、今後、中国の動向が気になる。
	製造業（精密機械器具）	以前に比べ、部材の難入の状況は回復傾向にあると考える。
	製造業（精密機械器具）	旅行、イベントなどレジャー関係は動きが見られるので、景気は回復傾向にあるような気がする。ただ、物価高騰が進んでいるので、賃金とのバランスがどこまで取れるかによって景気は左右されると思う。
	製造業（その他）	ガソリン高の影響は大きく、周囲も旅行や遠出を思い止まる人が多い。サービス業に影響が及ぶことを懸念している。
雇用	求人広告	閉店・廃業の話が身近なところで聞こえてくるようになった。
	公共職業安定所	物価の上昇は、買控えを誘発しており、見ていると身近な小売店などは客足が減っている。
	求人開拓員	県央地域のとある駅付近では、駅と大型商業施設を結ぶ通路の建設が進む等、益々便利になる様だ。

## (2) 県央地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	値上げが中々止まらない。色々な取引先から毎月のように値上げの連絡があり、いつになったら落ち着いてくれるのか不安になる。
	商店街代表者	新型コロナウイルスに関する補助金の返還時期やインボイス制度実施時期に合わせて廃業や倒産が増えてきている。
	小売業	モノ消費だけでなく、サービス消費、旅行など範囲が広がっている。
	スーパー	電気代の高騰により運営を圧迫している。
	コンビニエンスストア	比較的に安価の商品の販売が好調である。
	酒・各種商品小売業	人々が活発に動き出した分、新型コロナウイルスの感染者も急増している感じで不安。
	農産物直売所	「ここに来て新型コロナウイルス、インフルエンザウイルスで予約キャンセルが多くなった」と複数の飲食店のオーナーから話を聞いた。
	割烹料理店	やっとコロナ禍が終わったと思っていたのに、このような状態になるとは思いもしなかった。このままではこれからの営業が継続出来るのか心配だ。
	観光型ホテル	物価や燃料など、値上がりが続いている。
	バス運転手	今春に自家用車を燃費の良いものに買換え、ガソリン代負担が軽くなったが、ここ1~2か月のガソリン価格の値上がりで、浮いた分が帳消しになってしまった。
	タクシー運転手	コロナ禍以前の景気の水準に戻るには、もう少し時間が必要と感じる。
	道の駅	円安で外国人が多く来店している。以前はゼロに等しいくらいいなかったのが、目立つほど多くなっている。誰が来ても客だからいいが、風習が違うので戸惑う時が多々ある。
	レジャー施設	台湾からの旅行客が定期的に来館しており、今後もインバウンド需要は、増えると思込まれる。
	スーパー銭湯	人手不足が自社だけでなく、取引先でも顕著に見られるようになった。工事、納期遅れが目立つようになり支障をきたし始めている。ひどいところは、連絡しても返信がなかったり、約束を守らないようなところもあり困っている。
設計事務所	10月に通勤手当を見直す、今年ガソリン価格の上昇が一過性でないと判断して単価を上げる予定である。個人的に、家庭でたくさん消費する牛乳が最近また高くなったが、消費を控えるつもりはない。アメリカに住んでいる親戚が8月に日本に来た際「日本の物価は感覚的にアメリカの半分」とコメントしていた。	
企業	製造業(食料品)	各地のイベントが再開され、需要が戻りつつある。
	製造業(印刷・同関連業)	全般的に値上がりの影響だと思うが、価格への転嫁が少しずつではあるが、可能になってきている。
	製造業(窯業・土石製品)	全ての物価が上がっており、買控えている感じである。
	製造業(一般機械器具)	人材不足、若い子は大手ばかり見ていて中小企業に目を向けてくれない。女性活躍より少子化対策の方に力を入れてもらいたい。近隣の高校で卒業生が40~70人しかいない所もある。
	製造業(精密機械器具)	求人は出しているのだが応募がない。
	建設業	業種、事業手法を変えて生き残ろうとしているようだ。
	運輸業(道路貨物運送業)	運送事業者としては、燃料費高騰と拘束時間削減のための高速利用、そしてドライバー確保のための賃金見直しと、三重苦となってしまっている。また、物価高騰による車両価格の値上げや納車遅延が更に追い打ちをかけ、立ち行かなくなる事業者が出てくると思われる。
	金融業	老朽化したビル施設の売却が進み、跡地に富裕層を対象とした高層マンションが多く建設されている。
情報通信業(情報サービス業)	夏休みを挟んで新型コロナウイルス感染者が増えている。これが第9波なのだろうが騒がない分、平静である。	
雇用	公共職業安定所	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことを受け、ホテル・観光業では客足が戻りつつあり、人手不足が顕著であるとの話を聞く。60歳以上の求職者が増加傾向であり、物価高の影響もあり、年金だけでは生活ができないといった声も耳にする。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	コロナ禍の落ち着きと共に、創業に係る相談・申込が増えているように感じる。
	衣料品販売店	大企業だけが利益を出している現状に一般市民は嫌気が差している。近隣の身近な零細企業が倒産した話を聞くたびに悲観的になってしまう。
	農産物直売所	燃料高騰が一番ネックである。値上げラッシュのボディープローも完全に効いている。政府の政策を見ても景気が上がるような気配がしない。
	小売業（薬品店）	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行してからは、夜飲みに行こうと店に電話すると週末などは入れない時が増えてきた。人の動きは前に戻りつつあると感じる。
	小売業（食品）	景気のいい話は聞かない。
	和食レストラン	本年春先より、インバウンドの影響により中国等からの団体客が数多く来店したが「処理水」の問題が影響したかは不明であるが、最近時は減少に転じている。
	洋食食堂	業種も問わずに個人の商店が閉店している。街の存亡にも関わると思うが、誰も止められない。
	日本料理店	潰れている店の話を聞くようになった。
	運転代行	物価の値上がり特に目立ち、日常生活にも大きな影響を与えている。
	タクシー運転手	値上げで大変な生活をしているのが現状。新型コロナウイルス感染者も増加の傾向。そういう中でタクシー料金も上がるような話を聞いているが、増々景気が悪くなるだろう。日本だけが豊かになっても、世界が平和になり豊かにならないと駄目だと思う。
	レジャー施設	大雨による災害が増えている。また、引き続き物価の上昇、エネルギー価格の上昇なども止まらない状態である。災害による被害者救済措置、物価高対策、エネルギー価格高対策など国民生活を守る政策を早急に国、県にしてもらいたい。
	理・美容店	当店でも材料費、光熱費の高騰により10月から価格改定して値上げすることになった。
	クリーニング店	エネルギーや食料品の物価の上昇が止まらない負担が大きい。
住宅販売会社	資材高騰が一番の要因で建物単価が高止まり状態だ。	
企業	農業関係者	店で菓子の販売価格が以前より金額も高く、さらに、量も減って少し小さくなっているのを見て、原材料の高騰などによる物価高の影響をしみじみ感じた。
	製造業（その他）	従業員や個人を見ると外出や外食、旅行などの話題が増えてきている。当社で新規工場の建設を行っているが、10年前と比べて著しく価格が上がっている。
	製造業（精密機械器具）	海外への販売が本決まりになりそうで、会社としては好景気が続きそうだ。
	製造業（金属製品）	コストと販売価格が見合わない。コスト率は、原材料から労務費まで10%以上上がった。
	建設業	物価の高騰が続き個人消費は上がっているの、今後、給与や設備投資に跳ね返ってくることを期待したい。
	運輸業（道路貨物運送業）	燃料高騰で、同業者の倒産話が聞こえてくる。物流関係は2024問題を抱えているため、現状がどのように変わるのか不安もある。
	金融業	飲食・小売業を中心に客が増加している印象。また、各地で祭事や花火大会等の各種イベントが再開されており、コロナ禍以前のような人流回復が見られる。
雇用	民間職業紹介業	中国木材の火災があり派遣切り等の動きがある事を、噂程度で聞いているため今後が心配だ。
	求人開拓員	新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、宿泊施設やゴルフ場での求人が増えている。特に調理担当者、清掃担当者、接客担当者の不足が多いように思う。

## (4) 県南地域

分野	業種・職種	コメント
家計	スーパー	県外の客が以前より増え、果物等を宅配で送っている客が増えた。
	小売業	コロナ禍で、客の消費は近場で短時間に済ますという行動が見られたが、最近では行動制限もなくなり、若者を中心に都心まで買物に行くという消費行動が見られる。一方、年配・ファミリー層を中心に夜遅くの消費を敬遠する傾向は変わらず、夕方以降の売上げが伸び悩んでいる。
	小売業（生花店）	土日の人の流れは増えてきたが、利益を転嫁できる店とできない店が明確になってきている。また、個人消費も低所得者を中心に低迷している。先日20時頃、仕事帰りの30代後半の男性が、半額シールの貼ってあるランチパック1つのみをレジで購入しているのを目撃して驚いた。所得格差を感じた。
	小売業（米穀）	コロナ禍で社員を減らした事業所は多いが、今、パート、アルバイトが見つからずコロナ禍前には戻っていない。飲食店などでは、満席で無いのに客待ちが出ているところが多い。
	洋食レストラン	PayPayやクレジットを利用したい客が多い。きっと、予算も多く利用できて、また、ポイントが付いたりと楽しく会計ができており、特典がある会計が今後にも繋がるだろう。
	食堂	当店はロードサイド店なので、道路環境が変わって来た（近くにバイパスが開通する等）ためフリーの客が減りつつあるように思われる。
	レストラン	3世代の会食の機会が確実に戻りつつある。1組単位の消費額も多いし、滞在時間も長い。今後も家族単位の利用や人数の増加が期待できる。
	都市型ホテル	コロナ禍の影響を受ける我々サービス業は、旅行・飲食・冠婚葬祭含め、まだまだ難しい状況だと思う。以前のように早くインバウンドが回復することを願っている。
	都市型ホテル	新型コロナウイルスも落ち着いたかに見えたが、感染者が会社で多く発生してしまい直前で宿泊や宴会をキャンセルされるケースもあり、未だ油断できない状況だ。
	都市型ホテル	何と言ってもガソリンを始めとした物価高が酷すぎる。それに加え税金も上げられたようで、庶民は苦しい生活をしているのに政府は知らん顔をするようで腹が立つ。しかし、携帯電話料金は安くなった。
	タクシー会社	デパートや飲食店なども混んでおり、駐車場にすら入れないこともある。
	サービスエリア	ヨーロッパ系、アジア系のインバウンド客がやや増えてきている。飲食店のスタッフが集まりにくい状況は変わらない。
	ゴルフ場	昨年の夏は熱中症で救急車を呼ぶ事も多数あったが、今年は災害級な暑さの中でも呼ぶ事は一度も無かった。皆無理をせず体調が悪くなる前にプレーを止める客が多かったと思われる。
住宅販売会社	不動産に関しては大きな動きは感じないが、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、イベント等も再開され、人の動き自体はコロナ禍前よりも出て来ているように感じる。	
企業	農業関係者	物価の高騰は食品はもとより、趣向品、レジャー用品、家電、生活用品まで及び、耐久消費財の買換えに躊躇しているのが現状である。農業系に職場を持つ者としては、肥料・農薬・包装資材・燃油・運送費等の高騰が農産物価格に転嫁できるよう、量販店、消費者の理解・情勢を願うばかりである。
	農業関係者	現在、いずれの分野においても言えることではあるが、特に農業資材の高騰が止まらない。出来高、買上げ米価が若干上がっているため、今後の動向に期待したい。
	製造業（飲料）	未だに新型コロナウイルス感染者がいたり暑さも続いているため、自身の体調も崩しがちなので、十分注意していきたい。また、酒税法の改定に伴い酒類の税率が引き上げられるので、今後の動向を見守っていきたい。
	製造業（印刷・同関連業）	株価の上昇などのニュースを見ると大企業の業績回復は進んでいると思うが、地方の中小規模事業者にとっては、まだまだ厳しい状況に変わりはないように感じている。今後、小規模事業者が生き残っていくには大変な努力が必要なのは当然だが、国や県の小規模事業者に寄り添う施策も一層必要に思う。
	製造業（窯業・土石製品）	ガソリン代、電気代が高い。物価が上がったと感じる。
	製造業（窯業・土石製品）	ガソリンの価格が高い。
	製造業（非鉄金属）	現在の物価上昇については、決して国内の景気の良さが要因ではなく、実体は円安等外的要因による物価高であることから、景気対策を怠ってはならないと思われる。
	運輸業（倉庫業）	燃料価格の上昇が運輸業界としてネックになるので、政府による補助金はぜひ減額しないで欲しい。
	金融業	旅客運送事業者で、物価高に合わせ車両リース代も上昇傾向にあるので、車両の自社保有率を高めることでコスト削減効果を狙い利益向上に取り組む企業努力が見られた。
	不動産業	戸建・AP用地の需要が高い。人口流入のチャンスとして、県南地域の都市計画見直しや区画整理を期待している。
雇用	民間職業紹介業	人手不足は継続しているが、外国人雇用で対応している。生産量が戻らず、今年の実産は不透明だ。
	求人広告	飲食店に関しては、宴会や予約が増えて明るい声を耳にする。
	求人開拓員	小売業へ訪問した際、物が売れなくなってきたとのことだった。メーカーの値上げが価格へ転嫁できないとのことだ。BSの経済番組でも7月の購買指数が-5%と言っていたので頷けた。輸入食材の話も聞いても高値相場だと言っていた。

## (5) 県西地域

分野	業種・職種	コメント
	コンビニエンスストア	催事やイベント事に対しては、消費にお金を掛ける事はあるが、日々の生活に対しては、出費に対して儉約的な視点で考える事が多くなっていると感じる。
	家電販売店	若干数ではあるが、家電選びの際に高付加価値商品を選ぶ客が出てきている事から、家庭の収支状況にもよるが消費行動に変化が見られる。
	自動車販売店	光熱費の割合が高くなってきている。自動車業界では、ロシアへの経済制裁の影響で、中古車相場に乱れがある。
	小売業（酒類）	値上げの波が今年に入ってから止まらない。毎月何かしらの値上げの話をしている気がする。そのたびに在庫を多く持たなければならなかったりして、仕入の支払いにずっと追われている感じから抜けられない。
	製茶販売	コロナ禍ではなくても出歩かない。買い物も最低限。景気はこれでいいのだろうか。
	食堂	食品や消耗品が値上がり、その分、外出を控えているように思える。
	和食レストラン	客の生活のパターンが変わったため、開店時間を早めた。
	旅行代理店	団体旅行が復活してくれば、更に期待が持てる。
	観光型ホテル	まだまだ新型コロナウイルス、インフルエンザなどウイルスでの感染要因が高まっている。毎日のニュースを見ていると以前のような景気には戻らないと思う。新型コロナウイルスに関する支援がなくなり、客が戻らない。新しいウイルスの感染の往来。取り引き銀行は支援もなくなり動かない。世の中に見捨てられた感じがする。何が原因でこんな状況に追いやられてしまったのか不安である。できる限り営業して行きたいと望んでいる。
	商店街代表者	納涼祭（盆踊り大会）・花火大会・団体旅行等のイベントに参加する人々が増加している。
クリーニング店	ガソリン、灯油、電気の高騰は企業だけでなく一般家計にも大きな影響力となる。昨今の価格高騰は、企業収益や顧客の消費に大きな影響を与えると予測される。	
企業	農業関係者	梨など果物の贈答品の価格が上昇している。
	農業関係者	食品等の値上げが続き、消費者の買控えや購買意欲の更なる低下が予想され、景気回復は厳しい環境下であると感じる。特に農畜産物のうち、牛肉や嗜好品の果実の販売単価が伸び悩んでいる。
	製造業（窯業・土石製品）	設備の修繕など、長く我慢していたものを始めているところが見られる。
	製造業（金属製品）	人手不足は切実な問題となっており、折角のチャンスを逃す場面もある。
	製造業（化学工業）	全体としての景気は良くない状況が続いているが、Chat GPTなどの生成AI系に使用される部材の需要はあがってきている。
	金融業	県西地区においては圏央道の2車線化が着実に進んでおり、工業団地造成が各地で開始されている。工業団地の誘致に伴い、労働者が居住するアパート需要が期待されている。
	不動産業	事業用ならびに居住用でも高額物件の動きが活発化している。
雇用	求人広告	飲食店や洋菓子店など、個人店の営業時間が短くなったような気がする。
	学校就業関係者	物価が上昇し、食品・生活必需品等の他、ガソリン価格までも値上がりしている。給与が少し上がっても家計は苦しくなる一方である。
	求人開拓員	ガソリン代が180円を超える高値になってきている。必要な費用と考えており、個人的にはガソリン代の増加は気にせず行動をしているが、今後の景気悪化に繋がらないか心配。